国際人文学部国際文化学科カリキュラム・マップ

DP（教育目標）

DP 1　文化の多様性を認識し、そのグローバル化の様相を理解する ことができる 。

DP 2　世界の中の日本の姿を認識し、理解する ことができる 。

DP 3　自身がおもに学ぶ国や地域の言語・文化・社会について基本的な知識を身に付け 、適切に理解 することができる 。

DP 4　一つ以上の外国語について、日常生活に必要な言語運用ができる。

DP 5　日本語を正確に理解し、論理的な文章を書くと同時に、自らの見解をわかりやすく伝達する ことができる 。

DP 6　必要な情報を適切な方法で収集し、クリティカルな態度をもって分析、活用する ことができる 。

DP 7　異文化社会に属する、多様な価値観や思考様式を持つ人々との相互理解に努め 、協調・協働して行動することができる。

DP 8　習得した教養や技能を活かし て、グローバル社会を多面的に捉え、そこから見解を形成し、課題の発見と解決に努めることができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	主要科目	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	DP 5	DP6	DP7	DP8	SDGs該当項目
全学部共通基盤科目群	アカデミック･スキルズ	1	必修		1.高等学校と大学の学びの違いを理解し、具体的に自分自身で学習計画を立てて、到達目標に鑑みて、折々に見直し、修正を図れる自主自律性を体得する。 2.単位制度を理解し、それに伴う履修申請、年次計画、成績評価などに習熟する。 3.学内学習施設、学部事務、学生課、保健室、相談室など学習をサポートする施設利用について習熟する。 4.授業内に求められる学習作法（ディスカッション、グループ学習、演習など）、予習、復習、授業課題など授業外で要請される学習作法に習熟する。					○	○		○	
	Fundamentals of English I	2	必修	○	Active participation in class is essential in this course with frequent pair-work & group-work activities. Students set learning goals at the start of each module and reflect on their strengths and weaknesses at the end of each module in order to develop their skills as autonomous learners. Repetition is also a key part of the course where learners are expected to review and preview class content by completing online assignments related to the textbook outside of class. Review and preview online activities will be assigned as part of the regular homework assignments. There are also three writing assignments and TOEIC assignments during the course and a final writing report.			○	◎			○		
	Fundamentals of English II	2	必修	○	Active participation is essential in this course with frequent use of pair-work and group-work activities, as well as online work and regular homework assignments. There will be both in-class and online assessment during the semester, as well writing assignments and a final written report.			○	◎			○		
	Oral Fluency I	2	必修	○	This speaking course aims to improve the student's ability to use English primarily in a university context. By the end of the course the student will be able to make introductions and small talk, discuss class-related problems with an instructor and ask questions about, and give opinions on, the weekend.			○	◎			○		
	Oral Fluency II	2	必修	○	As a speaking, conversation and discussion course students will have the opportunity to speak and discuss with partners in pairs and small groups. Through ongoing practice students will leave the course with more confidence in their speaking, discussion and listening skills.			○	◎			○		
	中国語I	2	選択	○	教科書に従って授業を進める。発音、語彙、文法項目、会話、練習問題などの学習を行う。発音（ピンイン）は、読み方と４つの声調のリズムは毎回の授業で聞く・発音するという練習を繰り返しながら定着していく。語彙と文法は、まず教員が意味と用法の解説をする。そのあと学生は例文を訳したり、文を作ったり確認するという形で学習する。会話の学習は、学生はグループ学習により、日本語訳、朗読、置き換え練習で確認し合うという形でする。			○	◎			○		
	中国語II	2	選択	○	中国語Ｉを履修した学生を対象とする。基礎的な中国語の文法を学習しながら、読み・聞き・話すといった言語能力を身につける。また、日常生活に密着するコミュニケーション能力を養うことを図る。			○	◎			○		
	韓国語I	2	選択	○	ハングルと基礎的な文法を理解し、身近な話題についての簡単な会話と作文ができるように練習する。			○	◎			○		
	韓国語II	2	選択	○	「韓国語I」を履修した学生を対象とする。「韓国語I」で学んだ内容を確実に復習した上、より多彩な表現と文法を学習し、多様な場面でコミュニケーションができるように練習する。			○	◎			○		
	スペイン語I	2	選択	○	スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されている。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめる。スペイン語Iの学習者は後期のIIの継続学習をすすめる。			○	◎			○		
	スペイン語II	2	選択	○	スペイン語は現在スペインのみでなく、米国やメキシコそして中南米の諸国の人々に母国語として話されている。そこで簡単な会話ができるよう、ABCの読み方、音の出し方から授業をはじめる。スペイン語Iの学習者は後期のIIの継続学習をすすめる。			○	◎			○		
	ドイツ語I	2	選択	○	教科書に掲載されている14の課のうち、第1課～第4課まで行う。文法の説明は日本語で行い、練習問題はドイツ語で行う。会話はパートナー練習の形式をとり、日常的なドイツ語が身につくようにする。			○	◎			○		
	ドイツ語II	2	選択	○	教科書に掲載されている14の課のうち、第５課～第８課まで行う。文法の説明は日本語で行い、練習問題はドイツ語で行う。会話はパートナー練習の形式をとり、日常的なドイツ語が身につくようにする。			○	◎			○		
	フランス語I	2	選択	○	この授業はフランス語を学んだ経験のない学生を対象としている。基本的な語彙と文法を習得することを目的とし、自己紹介、日常生活における簡単な会話ができるようになることを目指す。聞く、話す、読む、書くの４技能を網羅し、総合的なフランス語の力を養う。コミュニケーションを重視したタスク中心の授業を行い、理解するだけではなく使えるフランス語を習得する。			○	◎			○		
	フランス語II	2	選択	○	このコースはフランス語初級を履修した学生のみ履修できる。基本的なフランス語力をさらに広げ、深める意欲を持った学生のためのコースである。			○	◎			○		
	ハンガリー語I	2	選択	○	初めてハンガリー語を勉強する学生のための入門クラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。			○	◎			○		
	ハンガリー語II	2	選択	○	初めてハンガリー語を勉強する学生のための入門クラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。			○	◎			○		

	ポーランド語I	2	選択	○	原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法などについて解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習ではなく、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのさまざまな資料も活用しながらポーランドの魅力の紹介をしていく。			○	◎			○		
	ポーランド語II	2	選択	○	原則として、毎週1時間目は、テキストの内容に従って新しい文法事項について解説する。2時間目は、1時間目に学んだ文法事項の練習や応用を中心とし、知識の定着を助ける。また、単なる語学学習に終わらず、ポーランドの歴史や文化、ポーランド人の日常生活への理解を深められるよう、映像や画像などのヴィジュアル資料なども活用しながらポーランドの多様な魅力の紹介に努めたい。			○	◎			○		
	チェコ語I	2	選択	○	この授業の中で自作のプリントを基本に、チェコ語の授業をすすめる。徐々にチェコ語の話す力・理解する力をアップさせる。 また、チェコ語の習得に欠かせない、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。			○	◎			○		
	チェコ語II	2	選択	○	授業の中で自作のプリントを基本に、チェコ語の授業をすすめる。徐々にチェコ語の話す力・理解する力をアップさせる。 また、チェコ語の習得に欠かせない、チェコの現状やチェコの芸術、映画等の文化背景等についても学ぶ。			○	◎			○		
キャリア形成科目群	基礎演習A	1	必修		大学での学びに必要な基本的な考え方を身につけ、継続的・能動的な学習と、口頭発表や文章執筆に必要な知識・技法を習得する。 高等学校から大学への円滑な移行を図るため、大学での学習に必要な基本的なスキルを講義形式で解説したのち、各自の課題にそって情報収集を行う。					○	◎		○	
	基礎演習B	2	必修		基礎演習Aに引き続き、大学での学びに必要な考え方を身につけ、継続的・能動的な学習と、口頭発表や文章執筆に必要な知識・技法を習得する。 大学の2年次以降の学修に支障なく入っていけるよう、必要な基本的なスキルについてさらに解説し、各自の課題にそって情報収集を行う。					○	◎		○	
	基礎演習C	2	必修		この授業では、次の2点を目標としている。 ①3年次に国際文化演習を履修するための準備を行う。研究テーマの設定・先行研究や資料収集の方法・発表スライドのまとめ方、レポート作成方法等について学び、卒業論文（卒業制作）作成に必要な技術を習得する。学期末には原稿用紙20枚程度の小論文を作成する。 ②卒業後の進路決定について考える準備を行う。インターンシップについての情報を調べて共有すると共に、就職課が実施する説明会に参加する。					○	◎		○	
	キャリア形成演習	2	選択		キャリア形成のための主体的・自律的な学びを実現できるよう、必要な基礎知識を修得するとともに、必要な情報を適切な方法で収集および活用し、柔軟な思考力や判断力をもって行動する力を養うことを目標とする。 この授業を履修することを通じて、卒業後の進路について具体的な目標を設定し、計画的に就職活動を進めていけるようになることを狙いとしている。前半ではインターンシップ・エントリーや就職活動における最小限のトレーニングを行う。後半では、SPI問題集に取り組むことを通じて、問題処理能力の向上を図る。短時間に正解に辿り着くことが出来るよう、繰り返し練習問題に取り組んで欲しい。							○	◎	4,8
	ビジネス入門	2	選択		本講義の目的は、主に営利企業を中心として、ビジネス社会の仕組み、企業の特質、そこでのビジネスの進め方などを理解することにある。合わせて、将来社会人となった場合に不可欠なビジネスの知識も身に付ける。 ビジネスの世界への入門講義として、企業経営の基礎を学ぶ。履修生が、理論とケースディスカッションを通じて企業のグローバル展開や事業分析、そしてスタートアップなどに理解と関心を深めること、そして、今後のキャリア形成を考える上で、本講義がその礎となるとを目標とする。						○	○	◎	8
学部コア科目群	歴史･文化の視点	2	選択		大学での歴史の学習について、高校までの歴史の授業との違いを意識しながら、文化を歴史的に捉えていくために求められる基本的な視点を身につける。歴史の材料である史料の特性と、それらを利用した研究事例をもとに議論を進める。 歴史学の基礎的な事項について、日本史学の領域を中心に講義形式で説明する。研究に必要な作業の具体像について、担当教員の経験も交えながら解説することで、受講者が具体的なイメージを持てるようにしたい。	◎		○			○			
	異文化理解	2	選択	○	多文化、多言語、多民族社会の在り方、異文化間接触に関する様々な課題について学び、異文化を理解する知識と方法を身につけることを目標とする。さらに、昨年から外国人労働者の受け入れを容易にした日本において、多民族多言語多文化社会に変貌しつつあり、ホスト社会とマイノリティ・ディアスポラとの関係のあり方について理解することをも目標とする。 グローバル化する世界においては、ヒト、モノ、カネの流れが益々ボーダレス化し、ヒトや文化の国際交流が盛んになっている。そして個人が異文化に接触する機会が飛躍的に増大している。それとともに異文化を理解することの重要性も増している。この講義では、日本や他の世界の文化を例に挙げながら、異文化理解の必要性、異文化理解の仕方、異文化理解に必要な心構えなどを学ぶ。	◎		○					○	10
	世界の中の日本	2	選択		世界の中の日本、とりわけ日本と中国との歴史的関係を中心に勉強することを通じて、世界における日本の役割の変化を理解し、今後日本の国際的地位向上などについてともに考えるのを目指そうとするものである。 本講義は、日本と中国との歴史往来及び国際関係に興味を持つ学生を対象に、年代時間を軸にし、日本と関わりのある重要な歴史事件に重点を置くという形で日本がどのように世界を認識してきたか、日本がいかにいて世界とともに歩んできたか、日本の国際関係などをめぐって皆さんと知識を分かち合うことを通じて、世界における日本の今後の在り方をともに思考する。	○	◎	○					○	
	国際コミュニケーション入門	2	選択		In this course students will have the opportunity to reflect upon various basic issues regarding communication. Besides the basis of the concept of communication, they will reflect upon the impact of cultural values and cultural knowledge. Students will be encouraged to raise their own questions and also to make comments during class.	○						◎	○	

	留学プランニング	2	選択	○	本授業は、２年次の春学期から海外長期留学を実際目指したい学生を対象とする。何となくではなく確実に意欲をもった学生、さらにプレゼン力及びコミュニケーションがしっかりとれる学生であることが望ましい。国際文化学科21世紀に入り、グローバル化の進展とともに、カネ、モノ、情報、ヒトの移動がボーダーレス化している。これらを踏まえて異文化理解と知識を備えて履修者全員海外長期留学を目指す。 本授業ではまず留学する意味や目的について学習し、続いて留学前の準備、留学志望理由書の作成、模擬面接の練習、留学先での過ごし方について学ぶ。最後に帰国後に留学した成果を継続的に維持する方法について考える。授業では、講義だけではなく、留学先について学生が調べ、授業でプレゼンテーションし、議論していく。	○						◎	○	
	Basic Writing Skills I	2	選択		This is a required course for first year students in the Department of International Exchange Studies. It covers the fundamental skills of sentence structure, paragraphs, and the writing process. During the semester, students will start producing a portfolio containing all their work which is to be submitted at the end of the quarter as a course requirement.			○	◎			○		
	Basic Writing Skills II	2	選択		This is a required course for first year students in the Department of International Exchange Studies. It covers the fundamental skills of sentence structure, paragraphs, and the writing process. During the semester, students will start producing a portfolio containing all their work which is to be submitted at the end of the quarter as a course requirement.			○	◎			○		
	Intermediate Practical Discussion Skills I	2	選択		This course aims to improve the student's speaking, conversation, and discussion skills. Students will learn how to conduct conversations and discussions in English, with the end goal of developing a higher level of conversational fluency and a wider range of conversation strategies. Students will also develop a knowledge of new and additional vocabulary on useful conversation and discussion topics.			○	◎			○		
	Intermediate Practical Discussion Skills II	2	選択		This course aims to improve the student's speaking, conversation, and discussion skills. Students will learn how to conduct conversations and discussions in English, with the end goal of developing a higher level of conversational fluency and a wider range of conversation strategies. Students will also develop a knowledge of new and additional vocabulary on useful conversation and discussion topics.			○	◎			○		
	Intermediate Writing Skills I	2	選択		This is a required course for second year students in the Department of International Exchange Studies. This course builds on the knowledge and skills gained from Basic Writing Skills. The students will receive a wide variety of stimulating topics on which to write and to develop their skills. These topics will help students to go beyond sentences and write coherent blocks of text to which they will bring their own ideas and creativity. The focus of the course is on writing paragraphs and the principles and processes that contribute to good paragraph writing. During the semester, students will create a portfolio of written work and submit it at the end of the quarter as a course requirement.			○	◎			○		
	Intermediate Writing Skills II	2	選択		This is a required course for second year students in the Department of International Exchange Studies. This course builds on the knowledge and skills gained from Basic Writing Skills. The students will receive a wide variety of stimulating topics on which to write and to develop their skills. These topics will help students to go beyond sentences and write coherent blocks of text to which they will bring their own ideas and creativity. The focus of the course is on writing paragraphs and the principles and processes that contribute to good paragraph writing. During the semester, students will create a portfolio of written work and submit it at the end of the quarter as a course requirement.			○	◎			○		
	Intermediate Reading Skills I	2	選択		The goal of this course is to improve the students' reading skills by expanding their vocabulary, enabling them to recognize word parts and their meaning, improving their understanding of paragraph structure, and demonstrating how to better infer meaning in context. The reading strategies practiced throughout the course will also help students develop key reading skills that it is hoped will enable them to improve their scores on the reading section of the TOEIC Test.			○	◎			○		
	Intermediate Reading Skills II	2	選択		The goal of this course is to improve the students' reading skills by expanding their vocabulary, enabling them to recognize word parts and their meaning, improving their understanding of paragraph structure, and demonstrating how to better infer meaning in context. The reading strategies practiced throughout the course will also help students develop key reading skills that it is hoped will enable them to improve their scores on the reading section of the TOEIC Test.			○	◎			○		
	Advanced Practical Discussion Skills	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
	Advanced Reading Skills	2	選択		This course is for students who want to learn how to read English more quickly and how to understand English texts more effectively. It is based on the belief that a regular practice only can achieve this aim; therefore, it is expected that students participate and contribute to activities in class. This includes practice with many kinds of reading tasks and sharing your reading experiences and suggestions with other students via discussions and writings.			○	◎			○		
	Business English Writing	2	選択		This course is targeted to help students develop their written communication skills for business settings. The course is compiled of individual tasks incorporated with business themes.			○	◎			○		
	Spoken Business English	2	選択		The primary goal of this course is to teach communicative competence. It is designed for learners who need to use English in the workplace and focuses on practical language for everyday purposes to achieve a reasonable degree of effectiveness in a variety of situations.			○	◎			○		
	Oral Fluency III	2	選択		The aim of this course is to develop your speaking skills and critical thinking skills. Developing these skills will also help you to further strengthen your overall English ability. In this course, you will read and listen to passages about important social issues which will improve your knowledge in these areas. The comprehension and summary activities will also help you to learn important vocabulary.			○	◎			○		

Oral Fluency IV	2	選択		Oral Fluency IV aims to improve students' academic listening and discussion skills by expanding their vocabulary and having them engage with a broad range of authentic listening materials in English. Students will develop the knowledge to focus on essential information in different forms of oral communication (e.g., lectures, interviews, presentations, reports) while taking notes. The assigned listening comprehension and fluency exercises throughout the course will aid the students in thinking critically about relevant topics in various fields of specialization (i.e. Sociology, Nutritional Science, Psychology, Marketing, Behavioral Science and Philosophy), as well as express and present original ideas in a clear and logical manner.			○	◎			○		
Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues A	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
Topics for Cross-cultural Communication: Global Issues B	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
English for Advanced Studies C	2	選択		This course will prepare students to appropriately use English in a higher education setting. The central focus of this class will be to develop academic listening, note-taking, and topic discussion skills. This course will build on the skills developed in English for Advanced Studies A and English for Advanced Studies B.			○	◎			○		
English for Advanced Studies D	2	選択		This course will prepare students to appropriately use English in a higher education setting. The central focus of this class will be to develop academic listening, note-taking, and topic discussion skills. This course will build on the skills developed in English for Advanced Studies A and English for Advanced Studies B.			○	◎			○		
English for Specific Purposes C	2	選択		ESP C is a speaking and discussion class organized around three units. Each unit has articles designed to develop your interest, vocabulary, and knowledge of a topic. You will do homework assignments to prepare for group discussions and activities. In class you will prepare for and participate in discussions on the topic. In addition, for each unit you will complete individual research and discuss this research with your classmates.			○	◎			○		
English for Specific Purposes D	2	選択		ESP C is a speaking and discussion class organized around three units. Each unit has articles designed to develop your interest, vocabulary, and knowledge of a topic. You will do homework assignments to prepare for group discussions and activities. In class you will prepare for and participate in discussions on the topic. In addition, for each unit you will complete individual research and discuss this research with your classmates.			○	◎			○		
ドイツ語Ⅲ	2	選択	○	ドイツ語初級に不可欠な文法事項を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることが目標である。(独検4級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文を運用できる。）ドイツの文化、都市、歴史に関する知識を深めます。読解力が深まる。 ドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語を母語とする社会についての知識と関心を深めていってほしい。 dieser型冠詞、mein型冠詞、分離動詞、命令形、接続詞、副文を理解し、活用することができる。			○	◎			○		
ドイツ語Ⅳ	2	選択	○	ドイツ語初級に不可欠な文法事項を習得し、文法の進度に合わせて簡単な日常会話ができるようになることが目標である。(独検5級：初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文を運用できる。）読解力が深まる。ドイツ語を学ぶことを通して、ドイツ語を母語とする社会についての知識と関心を深めていってほしい。zu 不定句、形容詞の原級、比較級、最上級、動詞の３基本形、過去形、、現在完了を理解し、活用することができる。			○	◎			○		
ドイツの言語・文化・社会 A	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
ドイツの言語・文化・社会 B	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
フランス語Ⅲ	2	選択	○	At the end of the course, students should be able to: Reinforce the knowledge of Year 1 Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts and possibilities. Develop an appreciation of the history of France, French people`s lifestyle, habits, ways of being and make comparisons with their own cultures.			○	◎			○		
フランス語Ⅳ	2	選択	○	At the end of the course, students should be able to: Apply the knowledge of the past semesters of study and develop high level proficiency in French Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts and possibilities. Develop an appreciation of the history of France, French people`s lifestyle, habits, ways of being and make comparisons with their own cultures.			○	◎			○		
フランスの言語・文化・社会 A	2	選択		At the end of the course, students should be able to: 1) Apply the knowledge of the past four quarters - or the equivalent in terms of their experience from study abroad programs and/or self-study - and develop intermediate to high level proficiency in French. 2) Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world, and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts, and possibilities. 3) Develop an appreciation of the history of France, French and Francophone`s lifestyle, habits, history, and traditions. 4) Develop a thorough understanding and critical appreciation of the notion of secularism, fraternity, equality, freedom, and make comparisons with their own cultures and traditions and spheres of cultural reference.			○	◎			○		
フランスの言語・文化・社会 B	2	選択		At the end of the course, students should be able to: Apply the knowledge of French I, II, III, IV and French A - or the equivalent in terms of their experience from study abroad programs and/or self-study - and develop high to very high level of proficiency in French. 2) Express themselves orally and in writing on the topics beyond their personal world and understand temporal nuances in terms of facts, forecasts, and possibilities, and predictions 3) Develop a critical and nuanced appreciation of the history of France, French people`s lifestyle, habits, Francophone culture, history, traditions, the notion of secularism, fraternity, equality, freedom, make critical comparisons with their own cultures and spheres of cultural reference. 4) Develop a critical appreciation of the multiple Francophone cultures and make informed critical comparison with their own culture and traditions.			○	◎			○		

	スペイン語Ⅲ	2	選択	○	スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。			○	◎			○		
	スペイン語Ⅳ	2	選択	○	スペイン語I&IIで勉強した文法や単語を深める。DELE A1試験が合格できるようになることが目標である。			○	◎			○		
	スペインの言語・文化・社会 A	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
	スペインの言語・文化・社会 B	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
	中国語Ⅲ	2	選択	○	中国語Ⅱを履修した学生を対象とする。中国語Ⅰ・Ⅱで習得した基礎的な単語や文法知識を復習しながら，新しい表現を徐々に加え，日常生活に密接する場面で使う日常会話を繰り返し練習することによって、効率よく中国語の基礎力、コミュニケーション力を養成できることを目標とする。中国語検定準４級あるいは4級を受験する。			○	◎			○		
	中国語Ⅳ	2	選択	○	中国語Ⅲを履修済み、初級文法の学習を終えている学生を対象とする。初級クラスで習得した発音・語彙・文法などの内容を復習しながら、中級文法を学習し、中国語の構文構造を正しく理解し、初級から中級へのレベルアップを目指す。重要なポイントを繰り返し練習しながら、徐々に「自分のこと」や「日本のこと」を中国語で伝える能力を伸ばしていく。授業終了時に中国語検定４級合格レベルに到達することを目標とする。			○	◎			○		
	中国の言語・文化・社会 A	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
	中国の言語・文化・社会 B	2	選択		（調整中）			○	◎			○		
	韓国語Ⅲ	2	選択	○	1.「韓国語Ⅱ」で学んだ韓国語を復習し、活用することができる。 2. より複雑な表現と文法を理解することができる。 3. 学習した内容を実際に利用し、多様な場面でコミュニケーションすることができる。 4. 教室内外においてコミュニケーションを行う中で、そのコミュニケーションに必要な言語、文化、社会について考え、学び、自己実現につなげていく力を育成する。 5. ハングル能力検定3級以上の合格を目標とする。			○	◎			○		
	韓国語Ⅳ	2	選択	○	１・ハングル能力検定３級以上、TOPIK３級以上の合格を目指す。 ２・韓国語の中級レベルを目指す。 ３・身近な話題について問題なく会話や作文ができる。その上、より複雑な社会的環境の中でコミュニケーションすることができる。 ４・辞書を引きながら新聞記事や文学作品を読んだり、ニュース番組を見て理解することができる。			○	◎			○		
	韓国の言語・文化・社会 A	2	選択		１．韓国の文化についての知識と教養を高める。 ２．韓国の礼儀作法を身につける。 ３．文化に関する語彙力と表現力を培う。			○	◎			○		
外国語科目群	韓国の言語・文化・社会 B	2	選択		１．韓国の社会と歴史事情についての知識と教養を高める。 ２．韓国事情に関する中・上級以上の語彙力と表現力を培う。			○	◎			○		
	ハンガリー語Ⅲ	2	選択	○	ハンガリー語をもう一年間以上勉強している学生のためクラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につける。授業中に時々英語も使います（翻訳の練習など）。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もあるので、授業は英語学習も支えている。 ハンガリー語の授業はＪＩＵのハンガリー研修とハンガリー留学プログラムの準備コースと夏の大学の奨学金の準備コースでもある。			○	◎			○		
	ハンガリー語Ⅳ	2	選択	○	ハンガリー語を勉強する学生のためのクラスである。基本文法と基本語彙のほか、日常会話も身につけます。授業中に時々英語も使う。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もあるので、授業は英語学習も支えている。 ハンガリー語の授業はＪＩＵのハンガリー研修とハンガリー留学プログラムの準備コースと夏の大学の奨学金の準備コースでもある。			○	◎			○		
	ハンガリーの言語・文化・社会 A	2	選択		一年以上ハンガリー語を勉強している、ハンガリー語I-Ⅳの履修済みの学生のためのクラスである。ハンガリー語（文法、日常会話など）を勉強する上、ハンガリー文化についての知識も増やす。授業中に時々英語も使う。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もするので、授業は英語学習も支えている。ランゲージシャワーを通ってハンガリー語を勉強しながら、他の言語の使用経験も可能にする。			○	◎			○		
	ハンガリーの言語・文化・社会 B	2	選択		一年以上ハンガリー語を勉強している、ハンガリー語I-Ⅳの履修済みの学生のためのクラスである。ハンガリー語（文法、日常会話など）を勉強する上、ハンガリー文化についての知識も増やす。授業中に時々英語も使う。英語からハンガリー語へ、ハンガリー語から英語への翻訳練習もするので、授業は英語学習も支えている。ランゲージシャワーを通ってハンガリー語を勉強しながら、他の言語の使用経験も可能にする。			○	◎			○		
	ポーランド語Ⅲ	2	選択	○	ポーランド語を今まで履修した学生が対象となる。ポーランド語の初級文法を復習し ながら、中級の学習を進めていく。特に会話能力と聞き取りに力を注ぐ。ポーラン ド人一家の日常を描いている"Uczmy sie polskiego" の文法を解説しながら、実用的な表現を身につける。簡単な受け答えだけではなく、自分の意見や考えを伝えられるようにする。語学学習のみに留まることのないように、ポーランド映画を 視聴する。そのなかで表現される歴史的な状況、ものの考え方や文化的な局面を 解説する。映像を通してポーランドという国の理解を深めることができる。			○	◎			○		
	ポーランド語Ⅳ	2	選択	○	ポーランド語という言語の入門的な授業として、ポーランド語の文法 の基礎を学ぶ。しかし、文法だけに集中せずに、発音にも細心の注意を払って、日常会話でよく使われる表現を身につける。自己紹介や自分の家族について話せる表現を使えるようにする。そのなかに年齢、職業、趣味に関する表現を覚える。普段の生活に必要不可欠な数字も早い段階で修得する。交通、病院、レストランや買い物など簡単で、実用的な会話表現をマスターすることができる。			○	◎			○		
	ポーランドの言語・文化・社会 A	2	選択		今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることに努める。徐々に読解力も身に付ける。ポーランド人と日常会話ができるよう、ポーランド語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。			○	◎			○		

ポーランドの言語・文化・社会 B	2	選択		ポーランド人と日常会話ができるよう、ポーランド語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることに努める。徐々に読解力も身に付ける。			○	◎			○		
チェコ語Ⅲ	2	選択	○	今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることに努める。徐々に読解力も身に付ける。 チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコについての知識も深める。			○	◎			○		
チェコ語Ⅳ	2	選択	○	前期で習得した文法を使用し、簡単な文章を練習する。さらに語彙を広げ、日常表現を覚え、会話を練習する。会話力の基礎を固める。ヒアリングの練習もし、理解する・話す力を少しずつ身につけることがこの授業の目標である。後期終了時に簡単な会話ができるように授業を進める。又、授業の中で言語だけではなく、DVDやCDを使いながら、チェコの文化、音楽、アニメなどについて学び、さらにチェコ語とチェコについての知識を深める。			○	◎			○		
チェコの言語・文化・社会 A	2	選択		今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることに努める。徐々に読解力も身に付ける。チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。			○	◎			○		
チェコの言語・文化・社会 B	2	選択		今まで学習した文法、語彙、表現を復習・練習することにより、話す力・聞く力を深めていく。さらに、文法の知識や語彙を広げることに努める。徐々に読解力も身に付ける。チェコ人と日常会話ができるよう、チェコ語の会話練習を重ね、語彙を広げることが授業の目標である。			○	◎			○		
日本語Ⅲ	2	選択		この授業は、日本語の運用能力が上級程度の日本語力を有する学生を対象に開講されるクラスであり、最終的には日本語能力試験N1を高得点で合格できる能力および大学院入学後やや就職後にも即適応できるレベルを目指す。			○	◎	○		○		
統合日本語Ⅲ	2	選択		学習者は、日本の文化、社会情勢、環境問題、ビジネス、現在話題になっている事柄など様々なトピックについて、記事や資料を使用し、読む・聞く・書く・話すの４技能を養う。学んだ言語知識を実際に使い自分の言葉でまとめたり、意見を述べられるようにする。また、ペアワークやグループワークを通して、お互いの意見交換をし、発表したり議論したりしてで学びの成果をまとめる。			○	◎	○		○		
専門日本語 （福祉・介護）	2	選択		福祉（介護・保育）現場で必要な日本語や表現を習得することを目標とする。 介護・保育の現場における1日の流れを把握し、要所要所で必要な知識、日本語を勉強し、実践する。			○	◎	○		○		
専門日本語（ホテル・観光）	2	選択		日本社会における重要なビジネス日本語の習得。様々な状況（空港、バス、観光名所など）での観光ガイドが使う日本語表現の習得。 日本のおもてなしを理解し、実践できるようになることを目標にする。			○	◎	○		○		
専門日本語（文学・評論）	2	選択		日本文学を含む現代文章が読める、語れるようになることを目指す。日本文学や現代文章を読む活動を通して日本人の考え方、価値観、思考、日本事情そして日本文化に関する言語表現を学ぶ。			○	◎	○		○		
専門日本語（異文化コミュニケーション）	2	選択		日本人とのコミュニケーションについて事例研究をしながら、ディスカッションを中心に学ぶ。日本人の「察しと遠慮」、曖昧な日本語表現を異文化コミュニケーションの観点から具体的事例から学んでいく。言語のコミュニケーションスタイルの違いにも触れ、学習者の異文化体験を語り合ったり日本人学生から意見を聞いたりしながら、日本型のコミュニケーションを学ぶ。学ぶ内容を通して日本語表現・文法・語彙を学ぶ。			○	◎	○		○		
日本語プロジェクト教育A	2	選択		この授業は、学習者が自ら探したテーマについて情報を集め、調べ、フィールド調査を行い、ディスカッションした上で、発表する、レポートをまとめる。 資料は与えられたものだけではなく、学習者が能動的に資料を自ら調べてまとめ、自分の言葉で完結に述べたり議論したりした上で、書く作業を行う。			○	◎	○		○		
日本語プロジェクト教育B	2	選択		日本の社会や文化を知るだけではなく、人と関わることを通じて理解を深める。また、テーマを設定し、自ら情報を集め、調査し、結果をまとめ、そして発表までの一連の流れを通して日本語コミュニケーション能力の向上を目指す。			○	◎	○		○		
ビジネス日本語I	2	選択		●テーマ 日本の企業文化への理解を深めるとともに、ビジネス場面で求められるマナーや日本語表現の基礎を、実践を通して身につける。 ●到達目標 1.正しい発音、丁寧な表現を使って日本語コミュニケーションができるようになる。 2.社会人としての基礎能力を身につける。 3.グローバル人材としての異文化理解、異文化コミュニケーション能力を高める。 4.日本の社会とビジネス社会で求められるマナーを身につける。 5.発表やディスカッションを通して、自分の意見を論理的に話す基礎能力を身につける。			○	◎	○		○		
ビジネス日本語II	2	選択		将来日本の企業や海外の日系企業に就職を希望する学生が、ビジネスの現場で通用する日本語能力とともに、社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）と異文化調整能力（異文化を十分に理解し、異文化接触場面で起こる複雑な状況下で課題を遂行する能力）を総合的に修得することを目指す。			○	◎	○		○		
キャリア日本語A（就職）	2	選択		将来、日本で働きたいと考える学生が社会に出るための準備をする。ビジネスコミュニケーションを図るために会社内の会話文やケーススタディから学び、就職のための日本語（履歴書の書き方、面接の仕方、企業分析、エントリーシートの書き方）を学ぶ。また、日本語でのコミュニケーション能力を上げるために、テーマ別に調べる・考える・話し合うなどディスカッションを通して協働で学び合う力も養い、自らのテーマについてのプレゼンテーション力を上げる。			○	◎	○		○		
キャリア日本語B（進学）	2	選択		この授業は、学部卒業後、大学院進学を希望する学生を対象に、小論文やレポート、論文の書き方を体系的に習得するためのクラスである。			○	◎	○		○		

	Fundamentals of Japanese A	4	選択		The goal of this class is to be able to comprehend spoken Japanese at a natural speed and communicate naturally in Japanese. From the very beginning, you will be exposed to spoken Japanese at natural speed. In addition to pronunciation and intonation, the understanding of Japanese language structures and their appropriate utilization are emphasized throughout this course. You are required to memorize vocabulary in advance of class time. You will also be required to do extended exercises.			○	◎	○		○		
	Fundamentals of Japanese B	4	選択		The goal of this class is to be able to comprehend spoken Japanese at a natural speed and communicate naturally in Japanese. From the very beginning, you will be exposed to spoken Japanese at natural speed. In addition to pronunciation and intonation, the understanding of Japanese language structures and their appropriate utilization are emphasized throughout this course. You are required to memorize vocabulary in advance of class time. You will also be required to do extended exercises.			○	◎	○		○		
	Fundamentals of Japanese C	4	選択		Students will learn how to integrate the basic structures and vocabulary, which they learned previously so that they can comprehend reading materials and perform various communicative functions. They will study new structures and vocabulary necessary to enhance their language skills. Although aural/oral skills are continuously emphasized, an increased amount of reading and writing will also be required. Students are expected to participate fully in classroom activities and discussions.			○	◎	○		○		
	Fundamentals of Japanese D	4	選択		Students will learn how to integrate the basic structures and vocabulary, which they learned previously so that they can comprehend reading materials and perform various communicative functions. They will study new structures and vocabulary necessary to enhance their language skills. Although aural/oral skills are continuously emphasized, an increased amount of reading and writing will also be required. Students are expected to participate fully in classroom activities and discussions.			○	◎	○		○		
	Intermediate Japanese Skills A	4	選択		This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover lower-intermediate level sentence patterns and expressions.			○	◎	○		○		
	Intermediate Japanese Skills B	4	選択		This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover mid-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.			○	◎	○		○		
	Intermediate Japanese Skills C	4	選択		This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover mid-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.			○	◎	○		○		
	Intermediate Japanese Skills D	4	選択		This course is designed for students who have knowledge of basic Japanese grammar. It aims to develop language proficiency in Japanese, integrating the four skills (speaking, listening, reading and writing). The materials cover upper-intermediate level sentence patterns and expressions. Students will acquire Japanese skills useful for daily life.			○	◎	○		○		
	JLPT Preparation A	2	選択		日本語をJLPTＮ４合格レベルまで上げます。それと同時に、日本での生活や、学校で使える日本語を学ぶ。 Increase your Japanese to the level of JLPTN4 passing. At the same time, students will learn Japanese that can be used at school and life in Japan.			○	◎	○		○		
	Advanced Japanese Skills A	4	選択		この授業では実際のコミュニケーション場面で、日本語で「できる」ことを増やすことを目標としている。授業が終わるころには、まとまりのある話をしたり、身近な話題の文の大切な点を理解したり、自然な速さの日本語を聴いて、大切なポイントがわかったり、SNSの投稿を読んだり、わからない言葉に出会ったときのストラテジーが使えることを目指す。			○	◎	○		○		
	Advanced Japanese Skills B	4	選択		この授業では実際のコミュニケーション場面で、日本語で「できる」ことを増やすことを目標としている。授業が終わるころには、まとまりのある話をしたり、身近な話題の文の大切な点を理解したり、自然な速さの日本語を聴いて、大切なポイントがわかったり、SNSの投稿を読んだり、わからない言葉に出会ったときのストラテジーが使えることを目指す。			○	◎	○		○		
	Advanced Japanese Skills C	4	選択		日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの４技能を高める中級日本語科目である。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。			○	◎	○		○		
	Advanced Japanese Skills D	4	選択		日本語能力試験N3相当の日本語力があると判断された交換留学・英語圏編入生が、N2合格のために読む・書く・話す・聞くの４技能を高める。主として日本語を用いるが、受講者の理解を助けるために英語を用いることもある。			○	◎	○		○		
	JLPT Preparation B	2	選択		このクラスでは、JLPTのＮ２レベルの達成を目指す。Ｎ２レベルの「読解・聴解」の試験対策はもちろん行うが、日本語の「読む・書く・聞く・話す」の４技能をＮ２レベルかそれ以上に底上げすることが目的である。具体的にはテキストやクラスで学んだことを活用して以下のことができるようになる。 ①日本語の新聞が辞書を使ったり解説を受けながら理解できるようになる。②まとまった文章がととのった表現で書けるようになる。③ニュースが解説を受けながら理解できるようになる。④きちんとした表現で発表ができるようになる。			○	◎	○		○		
	Japanese Project Education A	2	選択		This course is designed as a supplemental class for Japanese courses. Students are required to write their final Project paper on Traditional Japanese Culture. Students are also required to participate in three exchange activities.			○	◎	○		○		
	Japanese Project Education B	2	選択		This course is designed as a supplemental class for Japanese courses. Students are required to write their final Project paper on various Japanese cultures. Students are also required to participate in three exchange activities.			○	◎	○		○		

	比較文化概論	2	選択	○	この授業では、人の移動が増大しグローバル化が進行する世界において英語圏を中心とする西洋文化がいかに日本の文化の在り方に深くかかわっているかを学び、現在の日本文化を規定している近代という時代の文化・政治についての理解を深める。近代における西洋思想・文化と比較することによって定義されてきた日本文化の姿を学び、文化がつねに複合的な存在であることを理解するのが目標である。 この授業では、「文化」がどのように定義され、また理解・解釈されてきたかを近代と現代の異動を通して考える。授業の進め方はオンデマンド形式の課題とグーグルフォームを使った小テストが中心となる。歴史的な文化理解の変遷と現在の文化理解にどのような繋がりと違いがあるかについて理解を深める。	◎								10
	文化人類学	2	選択	○	この授業では「文化」という視点から人間の様々な側面を考察する学問である「文化人類学」における視点や考え方の基礎を身につけることを目的とする。 履修生は、人間や文化、社会に関する理解を深め、社会問題を考える力を身につけること、自分とは違う文化や価値観を有し自分とは異なる境遇に生きる人々と相互理解を図り、関係を構築する力を身につけることを目指す。 最初に、自分たちの日常を振り返り、文化の様々な側面について考察する。次に、異文化社会に属する人々と関わって相互理解を図る際に生じる多様な問題を、文化人類学の理論や知見を用いて分析する。最後に、そのような関係構築・相互理解の方法として、民族誌的調査法を用いたフィールドワークの可能性を検討する。授業のなかでは、履修生が課題について考え、その生かを共有する機会を多く設ける。	◎								
	言語学概論	2	選択	○	この授業は言語学の入門的な授業で、「ことばの形と意味」をテーマに、主に日本語の例に基づいて、音声・音韻と文法、意味に関する基本的な概念と、コミュニケーションにおける言葉の機能について学ぶ。それによって、一般言語学な視点から言語の基本構造とコミュニケーションにおける言葉の機能について理解を深める。また、日本語を他の言語と対照させて理解する視点も得られる。これらは、日本語や外国語についての専門的な知識であるとともに、異なる言語や文化を持つ人との相互理解の基礎でもある。	◎								
	日本文学概論	2	選択	○	日本文学について、その様々な時代、領域を概観し、日本文学について、その時代区分や代表作など、一般教養的な知識を身に付けることを目標とする。また、各時代について、いくつかの作品を取り上げて概観し、鑑賞するためのポイントを紹介することを通じて、具体的に作品の面白さについて考え、文学作品を楽しみ、文学作品に親しむ機会としたい。 時代区分を追いながら考察をすすめる。作品や代表的な論評など必要に応じて適宜、配布物を見ながら論評する。また、講義で扱った作家・作品について、部分的にでも読んでみて、作品の鑑賞のポイントについて学習する。	○	◎	○						
	視覚文化論	2	選択		「視覚文化論」の学習到達目標は、視覚文化に関する基礎的知識をつけ、専門性の基礎となる能力を養うことである。学習テーマは、「視覚文化とは何かを知る」である。 西洋を中心とした平面芸術の技法について、絵画、版画、印刷、写真、映画の原理と技法を知る。次いで視覚心理学的な「ものの見え方」について理解し、平面芸術における空間表現について、平面および立体芸術における時間表現について、その歴史・原理・展開を見る。なお、新着のニュースや話題、研究成果などを紹介するために授業の順序・内容を入れ替えることがある。	◎								
	政治学入門	2	選択		到達目標は、政治学を学ぶにあたって必要な基礎知識を習得することである。政治学研究には様々なアプローチがあるが、本講義では、アメリカ政治における権力の抑制と均衡のシステムがどのように機能するのかを学ぶ。受講者には、戦後日本が一つのモデルとしたアメリカの民主政治のあり方を理解し、今日のアメリカ政治の混迷の原因を考える一助としてもらいたい。 第一に、民主政治における権力の意味を知り、権力抑止の必要性について学ぶ。第二に、アメリカの大統領制の特質を日本の議院内閣制と比較しながら学ぶ。第三に、現代アメリカ政治における分極化の背景を学ぶ。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。	◎								10
専門基礎科目群	社会学入門	2	選択		私たちは、日常生活において、所属する社会・集団・組織の諸動向から影響を受ける一方、自らの日常の諸行為を通じて、所属する社会・集団・組織の動向に影響を及ぼす面がある。この授業では、社会学の基礎的な考え方に加えて、現在の日本の家族や地域、情報化や社会階層等の動向を理解することを通じて、クリティカルな態度をもって社会を分析する力を養うことを目的とする。そして、中学校・高等学校の「社会」教科科目に必要な知識の修得をはかる。 はじめに、世界が近代化するなかで誕生し展開した社会学の歴史、代表的な考え方を説明する。次いで、日本の社会における家族や地域、高齢化、情報化、社会階層と福祉国家論等についての社会学的なとらえ方を説明する。講義形式を中心にして進めていく。ただし、適宜、課題を実施し、理解を深めることとする。	◎								
	法律学概論	2	選択		法律を専門としない学生にとって、法律学概論という科目は敬遠しがちかもしれない。しかし、法律は社会の中で不可欠なものであり、実は私たちの生活にとって身近なものである。たとえば、結婚や遺産相続など人生の様々な局面でも法律の知識は必要であるし、大学を卒業して就職してからも法律を知っていることで助けられることもあるだろう。つまり、私たちは、法律を離れて生活することはできないのである。本授業では、具体的な判例・事例を取り上げながら、日本の国内法および国際法を概観することにより、法の仕組みと役割を理解することを目的とする。	◎								16
	日本の歴史A	2	選択	○	日本の前近代史の展開について、古代から近世までを概観し、各時代において重要と思われるテーマごとに概説する。講義では、文化や思想の歴史についての理解が深まるように工夫する。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。 歴史学においては史料を読み解くことが非常に重要になる、この講義では前近代の日本の歴史について概説するが、その際に、授業のなかで適宜歴史を語る史資料も紹介する。	○	◎	○						
	日本の歴史B	2	選択	○	日本の近現代史の展開について、明治維新から平成までを概観する。様々な支店からの概観が可能だがこの講義では、政治史を中心に概説する。適宜、文化や思想の歴史にも触れる。受講者が高校までの日本史の知識を踏まえた上で歴史の基本的な流れを理解し、説明できるようにすることを目的とする。 歴史学においては史料を読み解くことが重要になる。この講義では近現代の日本歴史について概説するが、授業のなかでは歴史を語る史資料も適宜紹介する。	○	◎	○						
	外国史概説	2	選択	○	この講義では、アジアと世界の現在を理解するために、マカオ（澳門）・香港というふたつの植民地の歴史的な展開から見た広い意味での東西交流史・東アジア近現代史を世界史的な視点から学習する。明清期及び中華民国期のマカオ・香港史を通して近代東アジア（東南アジアを含む）における植民地の歴史的意義について考究しながら、地球規模の貿易と文化交流の拡大を南アジア史・ヨーロッパ史・南北アメリカ史も視野に入れて講義する。政治史を主としながらも、その裏にある、テクノロジー・経済活動や思想・宗教といった要因を重視して、人類の発展を概観する。	◎								

	アメリカ文化概論	2	選択	○	植民地建設から現代まで、アメリカの歴史と文化の基礎を理解し、移民国家アメリカの文化の多様性を学ぶことを目標とする。アメリカ人が文化的基礎知識として学ぶ教養を身に付け、さらに各テーマの発展的内容にも触れ、アメリカ文化への理解を深める。 アメリカの歴史と文化についての教養としてアメリカ人のために編纂されたテキストに基づいて、歴史の流れに沿ってアメリカ文化を概観する。平易な英語で書かれたテキストには日本語の対訳がつけられているので、アメリカ史、アメリカ文化の基本的な事柄を日本語で理解し、必要に応じて英語での表現も確認することができる。テーマに関連する文献、映像にも触れ、幅広くアメリカ文化を理解していく。	○		◎						
	中国概論	2	選択		本授業は、人口、文化、社会、行政、国民性、外交政策、中国をめぐる国際関係等を通して、立体的、客観的、等身大の中国を見る力を身につけていく。そして、これらの基礎知識、情報に基づき、中国に対する理解力、分析力を高めていくことを目標とする。 80年代以降の中国経済の著しい成長に伴い、国際社会における中国のプレゼンスが次第に高まり、最後の社会主義大国、やがて世界一の経済大国、そして、国際社会に責任を持てる大国などの、中国に対する視点が分かれている。授業は、中国という国を理解するための入門講座と位置づけ、中国の人口、文化、社会、行政、国民性、外交政策などを幅広くわかりやすく解説し、立体的に、客観的に、等身大の中国を見ていく。	○		◎						
	韓国現代文化	2	必修	○	この授業では、韓国に現代文化に対する理解を深め、自身の文化観を構築することを目標とする。教員が文化事象に関する情報を提供するだけではなく、学習者自らが文化事象について観察し、分析し、創造したり、他の学生と協働して学習を進める協働、ＩＣＴなどを活用して情報を収集したり、発信することも学習の対象となる。尚、この授業では大学生に求められるアカデミックライティングのスキル向上にも力点を置く。 韓国現代文化について、事例や文献を考察していきながら、自文化と他文化の比較をし、共通点や類似点、相違点を把握し、その背景にあるものを考察する。これら学習を通じ現時点での自分の文化観を形成し、その内容を発表資料（紙芝居式PPT発表）やレポートにまとめる。	○		◎						
	国際文化入門	2	必修	○	国際文化学とは何かについて、さまざまな視点からのアプローチがされている。本授業はコースの基礎科目として、アクティブ・ラーニングを通して、国際文化学を主体的に学ぶことを目指している。グローバルな社会の動向について理解するためには、まずは自分が置かれた位置を確認する必要がある。多様な主体によって形成されている国際社会において、自分自身も主体的に関わっていることを自覚する必要がある。そのために、知識を身につける机上の勉強をするだけではなく、体験的な学びを組み合わせて行う授業にしていく。 次のキーワードを中心に授業を展開する。日本・日本人イメージ、異文化集団の関係性、旅、環境、第三世界、地球市民、多文化社会、地域社会、中国・日本・沖縄・アメリカ、食文化とファーストフード店。	◎		○						10
	日本民俗学	2	選択		本授業は、柳田国男が構築した日本民俗学をその全般にわたって基本的な成果を知ることを目標とする。 日本民俗学は、普通の人々の身近で日常的な生活の中に反復しているものを対象化することである。日本の生活文化は、高度成長期の1960年代以降、大いに変貌を遂げたが、変わらぬものもあるし、何より日常的な生活に注がれる視線はなお有効なものである。本授業では、映像資料なども見て貰いながら、日本民俗学の成果について講義する。	○	◎	○						
	日本文化論	2	選択	○	明治以降の日本文化論の代表的作品についてその内容を理解するとともに、時代背景についても概説を加える。その際に、特に人に焦点を当て、日本の近代化と関わりながら、日本の文化の問題を様々な形で問うた人物をクローズアップしたい。 講義の中では、日本文化論の著者の思想も交えて紹介しつつ、どのような文脈でどういった特徴の文化論が登場してくるのかを検討する。適宜映像作品も交えながら思想家についての理解を深めてもらう。	○	◎	○						
	日本語表現	2	選択		日本語表現に関する基礎的知識を身につけ、意思伝達を正確に行なう能力を養成することを目標とする。 文章による表現を中心に、意思伝達に伴う困難を十分に理解したうえで、受け手の立場に立って表現できるように、伝達に必要な想像力を養う。まず、一つの文を正しく表現することから始め、伝達上不明確な表現について、具体的に問題点を発見する力を養う。最終的には、論理的な文章を構成する能力を獲得することを目指す。 日本語表現について、ねじれ文や意味の曖昧な文、テーマの分かりにくい文など、ありがちな表現上の問題を具体的に見つつ、一つ一つの文の問題を発見し訂正する練習を通じて、伝達のために注意すべき基本的な項目を順次学習していく。また読み手の立場に立って考える習慣をつけるよう練習する。次に、短文の要約を通じて、正確な文章を書く練習をし、後半ではレポートや論文など論理的な文章の書き方を学ぶ。			○		◎				
	日本文学史	2	選択		日本文学について古代から現代までを概観し、日本文学の時代ごとの特徴を大まかに捉えるとともに、代表的な作品や作家について基礎的な知識を身に付ける。日本文学・日本文化を学ぶための基礎作りと同時に、各種採用試験の一般教養に対応できる知識を取得することを目標とする。 テキストを用いて日本文学の歴史的展開をみていく。時代別の特徴や代表的な作品についてある程度知識を有している前提で授業を進める。日本史の基礎的知識があることが望ましい。	○	◎	○						
	日本の文学(古典)	2	選択	○	この授業では、次の2つを到達目標とする。 ・古典文学の表現上の特徴を理解し、主体的に楽しむことができる。 ・古典文学が、言語文化だけでなく、ジャンルや時代を超えて種々の日本文化の基盤となっている様を理解し、古典とされるもの意義について考えようとする姿勢を持つ。 テキストを用いる。テキストは、「ことばの力」「編集」「読む」「文体」「レトリック」「翻訳する」「共有」の７つのジャンルから構成されており、それぞれのジャンルに対して2〜3のレッスンが設けられている。そして、その各章には、古典の特徴や面白さに関する解説と実践ととおして理解を深めるための練習問題がある。各自の考えや創作を発表し合い、楽しみしながら、理解を深めていく。	○	◎	○						
	日本の文学(近･現代)	2	選択	○	日本の近現代文学について、代表的な作家の作品の読解をすすめつつ、その作家の抱えていた問題、作品及び作家の歴史的社会的環境との関係について考察する。作品を読み解く際の注意点、作品の背景を学び、代表的な日本の作家について、また日本の近代についての理解を深めることを目標とする。 いくつか短篇小説を取り上げ、読解し、その作品の背景について解説する。また、作家についても概説し、それらの解説を通じて、近代というのはどういう時代であるか、理解する手がかりとしたい。	○	◎	○						
	ｱﾒﾘｶ文学概論	2	選択	○	アメリカの地域の特色と文化の特徴を、各時代の代表的な作家と文学作品を通して理解することを目指す。文学作品において使用されている様々な英語表現に触れ、英語の理解を深める。アメリカの小説を通して異文化理解を高めると同時に、人間に普遍的な問題についての洞察も深めていく。 主に20世紀のアメリカ文学の中から特定の作家を取り上げ、代表的な一つの作品を歴史や文化との関わりの中で捉える。実際の作品に触れ、多文化・多民族国家アメリカ独特の事象や問題を理解することを目指す。原作の英文読解を通して英語力を高めると同時に、文学作品を解釈する力、思考力、表現力を高めることを目指す。	○		◎						

	ｱﾒﾘｶの歴史	2	選択	○	到達目標は、現代アメリカを理解する上で必要なアメリカ史の知識を習得することである。そのために、（社会経済的な）格差が政治問題化する1870年代から、リベラル・コンセンサスが崩壊していく1960年代までの歴史を学び、政治が格差にどう対処してきたのか、あるいは、してこなかったのかを問う。受講者に、戦後日本のモデルであり続けるアメリカが、歴史の浅い国ではなく、実はとても古い国であることを知ってもらえれば幸いである。 第一に、現代アメリカの格差の現状について簡単に確認する。第二に、南北戦争からニューディールに至るまでのアメリカ合衆国の政治経済史をたどる。第三に、リベラル・コンセンサスの形成と崩壊を通じて、今日のアメリカ政治の混迷の歴史的淵源を探る。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。	○		◎						
	ﾗﾃﾝｱﾒﾘｶの歴史	2	選択	○	ラテンアメリカ地域の歴史、文化、社会の形成過程について基本的な知識を身につけることを第一の目標とする。 ラテンアメリカの歴史は、現生人類(モンゴロイド)が新大陸に渡ってきた2万年前まで遡る。このような雄大な時間の流れを念頭に、33カ国・13地域からなるラテンアメリカ諸国・地域の歴史について学び、今日のアジアや日本との関係について考え、理解を深めることをも目標としている。 授業では、ラテンアメリカの先史時代、征服期、植民地期、独立前夜、国民国家形成期、現代に時代区分し、それぞれの時代や時期の特徴を概観して、その形成過程を理解する。	○		◎						
	ドイツの社会と文化	2	選択		本授業では、ドイツについての基礎的な知識を習得するとともに、個別のテーマについて掘り下げて学ぶことを通じて、履修者をドイツ研究に誘う。到達目標は以下の4点である。 １．ドイツについての基礎的な知識を習得する。 ２．ヨーロッパ史におけるドイツの位置づけを知る。 ３．ヨーロッパ諸国および日本との比較のなかで、ドイツの特徴を知る。 ４．ドイツにおける人口、環境、ジェンダー等の現状について一定の知識を得る。 ドイツの歴史と現在、現代社会の諸様相を概観する。授業では、講義とともに、テキスト・配布資料をともに読み進めてゆき、出来る限りドイツ社会の多様な側面に触れる。講義以外に、グループ発表の機会も設けている。 本科目は、海外研修「ドイツ研修（ジェンダーと異文化を学ぶ）」の事前・事後学習としても位置づけられているので、ドイツ研修参加を希望する学生は、履修が義務付けられる。	○		◎						
	中国の歴史	2	選択	○	現代に生きる日本の人びとにとっては、中国という隣人といかに共に生きるか、国民的な命題といっていい、中国社会は長久の歴史を歩み、世界の他の国々とも異なる独特の道筋をたどり、さまざまな変遷と再編を重ね、より多元的に、より複合的に、現在に至った。中国を理解するには、それを歴史的視野の下で捉えることが欠かせない。中国の歴史を古代史を中心に学び、歴史の流れおよび各時代の事実を把握できるように、また各時代の特色が理解できるように、学生の巨視的に中国古代史の理解を深める能力を養うことを目標とする。	○		◎						
	日本美術	2	選択		造形を「視る」という行為を体験し、自身のものとすることを目的とした、美術鑑賞入門。あわせて、古美術に特有な基礎知識の修得を目指す。 前半は、日本美術の流れを概観する 中世から近世の絵画が描かれたメディアに注目し、造形の生きてきた時代背景と場を考える。 後半は、現代美術（作家作品、広告など）に取り込まれた古美術を入口に、古美術の魅力を検証する。それを通して「日本画」「日本的」ということ、視覚文化への問題意識を養う。	○	◎	○						
	西洋美術	2	選択	○	「西洋美術」の学習到達目標は、西洋美術に関する基礎的知識を身につけ、専門性の基礎となる能力を養うことである。学習テーマは、「作品から時代と文化を読む」である。 絵画を中心とした西洋美術について、ルネサンス期から20世紀までを概観し、主要な芸術家をとりあげて、その生涯と作品について紹介するとともに芸術上の概念について説明する。なお、新着のニュースや話題、研究成果などを紹介するために授業の順序・内容を入れ替えることがある。	○		◎						
	文化交流史(日本:ｱｼﾞｱ)	2	選択	○	日本列島と東アジア・東南アジア地域との文化交流の歴史の大概をテーマとし、歴史学の新しい成果も交えながら、それを理解することを目標とする。文化については狭義の文化だけではなく、政治、経済、および他の手段をもってする政治・経済の継続も含む。世界と日本の社会と文化も含む。 古代における日本への文化の伝播、中世から近世にかけての貿易、その後における日本経由のアジアの近代化、そして現代の状況について、時代を追いながら講義をする。事前・事後学習として映像資料の視聴や関連文献の閲読をして理解を深める。	○	◎	○						
	文化交流史(日本:欧米)	2	選択	○	産業革命以降のヨーロッパの経済発展と人口変動に伴う文化交流史をテーマとする。 1)人口変動に関する基礎的な概念や理論を理解する。 2)人口変動の背景やその結果としての文化変容について理解を深める。 3）近代以降のヨーロッパをはじめとする諸地域の人口移動について詳しく学ぶ。 テキストに沿って授業を進める。扱うテーマによっては、配布資料を用いたり、映像による授業を行うこともある。毎回スライドを利用して授業のポイントをまとめ、適宜、復習も行いながらテキストを読み進めていく。秋学期の前半部分を終えたところで、論述形式の小テストを実施する予定である。履修者の理解度を踏まえ、具体的な事例を挙げながら説明を加える。	○	◎	○						
	日本とアジア	2	選択		日本の発展はアジアと密接な関係がある。授業は、政治、経済の両側面から日本とアジアとの関係性を解説し、特にアジアの主要国である中国、韓国との経済交流、及び東アジア諸国との交流関係を解説し、日本にとってのアジアの重要性、また、アジアにおける日本の重要性、そしてアジア全体における共存共栄の今後を考察する。これらを通して、日本とアジアに関する系統的な知識の習得を目標とする。 授業は、日本とアジアとの関係を政治と経済の両側面から考察する。政治に関しては、日本とアジア主要国の政治システムの相違点を解説し、日本と他の主要国の政治プロセスの特徴を理解する。経済に関しては、アジアの主要国である中国、韓国の経済発展及び日本経済との補完的な成長パターンを解説する。そして、これらを踏まえて、東アジアにおける地域統合の可能性、問題点を探り、今後を展望する。	○	◎	○						
	日本と北米	2	選択		到達目標は、日米関係を学ぶにあたって必要な基礎知識を習得することである。幕末・維新期以降の日米関係の歴史をたどることにより、日本はアメリカとどう向き合ってきたのか、アメリカは日本にどのような影響を与えてきたのかを学ぶ。受講者には、今後の日米関係がどのように推移していくのかについて、手がかりを得る機会としてもらいたい。 幕末から現代に至る日米関係の来歴を学びながら、その対立と協調のリズムを確認する。それにより、このリズムが今後も続いていくのかを考えていく。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。	○	◎	○						

専門科目群Ⅰ（国際文化）	日本と中南米	2	選択		日本と中南米の歴史的な関係を中心に据えながら、広くアジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパの関係にも目を向け、広大な両地域関係の基本的な知識を身につけることを目標とする。 太平洋を挟む両地域の関係史について学ぶが、特に１６世紀から１９世紀に焦点を当てて講義を行う。最終的には受講者が、近現代過程における領地域の交流史を理解できるようにするのが目標である。 日本と中南米のヒトの繋がりや関係は現生人類のうちモンゴロイドがアメリカ大陸に渡ったとされる2万年前に遡る。彼らは古代文明を開花させ、独自の文化・文明を築いた。その後、直接の関係は途絶えたが、マルコ・ポーロの著した『東方見聞録』を参考に、大航海時代のヨーロッパ人によって新大陸が「発見」され、それに続いてジパング(日本)へとたどり着いて直接的な関係が再開された。そして16世紀以降、日本を含むアジア地域と中南米の歴史的な関係は強化されるようになった。	○	◎	○						
	日本とﾖｰﾛｯﾊﾟ	2	選択		ポーランド、チェコ、スロヴァキア、ハンガリーを中心とする中欧と日本がどのように交流してきたのか、その歴史と現状を学ぶ。西欧とロシアの狭間に位置する中欧に視点を据えることで、日本と西欧、日本とロシアの関係の新たな一面にも光をあててみたい。ヨーロッパ＝西欧となりがちな歴史のとらえ方を相対化し、ヨーロッパに対する偏りのない視点を身につけることが目標である。 9世紀後半以降の日本と中欧それぞれの出来事をおさえながら、19－20世紀を中心とする日本・中欧間の交流を世界史の大きな流れの中でとらえていく。また、中欧に隣接し多くの歴史的共通点をもつバルカン地域についても随時言及する。	○	◎	○						
	日中比較文化	2	選択		一衣帯水、同文同種と言われているが、日中間で文化的相違点がかなりあり、相互理解の妨げにもなる場合がある。本授業では、日中文化の相互理解を目的とし、日中比較の視点から、風俗習慣、対人関係、言語行動、国家・社会意識などにおける日中間の違いを検討し、日中間のスムーズな交流のための異文化コミュニケーション能力を高める。 国際化がより一層進んでいる今日、必要不可欠な国際感覚を養うために異文化理解が必要である。本授業では、日中間異文化コミュニケーションをスムーズなものにするための基礎として、日本と中国の文化について、表象から深層へ、個人から社会へと、様々な観点より、具体例をあげながら文化的比較を行う。なお、受講者による調査・報告・ディスカッションなどを行うものとする。	○	◎	○						
	多文化社会論	2	選択	○	グローバル化が進行する今日、地球上のほとんどすべての社会が多文化社会へと向かっていると言っても過言ではない。 この授業では、多様な民族が混住する中欧およびバルカンの経験を軸として、日本を含む他の国や諸地域と比較しながら、多文化社会における人々の共生を実現するためには何が必要かを歴史的視点から考える。多文化社会に生きる人間としての自覚と態度を養うことが目的である。 ネイション、ナショナリティ、エスニシティ、アイデンティティといった、多文化社会を考えるうえで不可欠な用語や概念を理解したうえで、近代以降、今日まで続く国民国家形成への志向がどのような問題を生み出してきたかを検討する。 日本人にはあまり馴染みのない地域についての抽象的な議論を含むが、ビジュアル教材などの活用により、受講者の理解を助けるようにしたい。	◎						○	○	10
	International Communication	2	選択		In this course students will be discussing issues related to international understanding and international communication based on the personal experiences and the readings distributed in class. This is a good opportunity for students going abroad to prepare themselves to participate in discussions using only English. Presentations on cultural issues will be given in English as well.	○		○				◎		10
	Language Acquisition	2	選択		The aim of this course is to improve students' knowledge about how languages are learned, and how to teach English as a foreign language. It focuses on the development of language skills in terms of reading, listening, speaking and writing. It also analyses different aspects of English language and develops teaching skills around these components, enabling students to have an understanding of language learning and teaching.	◎		○						
	Multimedia Production	2	選択		This course focuses on the conception, production and evaluation of multimedia, with a focus on basic video production and editing. Through this course, students will gain a better understanding of how multimedia is created and obtain the basic skills to create and edit multimedia themselves.							○	◎	
	Images of Japan：Literature and Film	1	選択		Examination of contemporary literature from post-WWI to end of Heisei (1989-2019). The period contemporaneous with the Heisei period is also marked by enormous changes external to the imperial time system: economic shifts (to virtual stagnation), social shifts (the progressive demise of the modern family), technological/material shifts (the rise of the digital/internet age), and more. We will closely read texts with a mind to the process of making meaning of Heisei as emerging history.	○	◎	○						
	Variable Topics in Culture and Society in Japan	1	選択		Although foreigners have studied and analyzed many unique aspects of Japanese culture since the 16th century, it is still difficult for them to understand how the Japanese think and act.This course will explore some of the major Japanese thoughts from the pre-modern as well as modern periods and examine characteristic behaviors of the contemporary Japanese people.	○	◎	○						
	Selected Topics in Japanese Manga and Animation	2	選択		Progress toward deep understanding of animation and mastery of the interpretive tools needed to make sense of this important popular phenomenon. We range in history from the first Japanese animations in the early 20th-century to within the past few years and will also cover a variety of genres, from children's fairy tales to war propaganda, science fiction and fantasy, crime/thrillers, and experimental works.	○	◎	○						
	日本語学概論A	2	選択	○	この授業では、日本語学の専門的知識として日本語の構造を幅広く学ぶとともに、日本語教育の視点及び国際的な視野からも日本語についての理解を深める。 (1)音声と音韻、文字と表記、意味体系、語用論の基礎概念を理解し、それによって日本語を分析したり説明したりできる。 (2)日本語の変遷と系統の基礎知識を理解し、説明できる。 (3)共通語と標準語の概念を理解し、説明することができる。 この授業と「日本語学概論b」で、日本語学の基礎知識を広く学ぶ。初めに、日本語の系統や「共通語」と「標準語」の概念などを学ぶ。その後、語の形（音声と音韻）、その表記（文字と表記）、形に結びつく意味（意味体系、語用論）について基礎的な概念を学ぶ。		○	○		◎			○	

日本語学概論B	2	選択	○	この授業では、日本語学・日本語教育の専門的知識として日本語の構造を幅広く学ぶとともに、国際的な視野からも日本語についての理解を深める。日本語教育との関連を考えつつ、形態論・語彙論・文法・待遇表現を中心に学ぶ。 次の四点を到達目標とする。 (1)日本語の形態論の基礎概念を理解し、説明できる。 (2)日本語の語彙論の基礎概念を理解し、説明できる。 (3)日本語文法の基礎概念を理解し、説明できる。 (4)待遇表現や語の位相に関わる基礎概念を理解し、説明できる。 この授業と「日本語学概論a」で、日本語学の基礎知識を広く学ぶ。形態論・語彙論として、語構成と造語法、語種、語彙量などを学ぶ。文法の諸概念のうち、態と授受表現、テンス・アスペクト・モダリティー、主題と取り立てを学ぶ。言語と社会に関わる分野から、待遇表現と語の位相について学ぶ。		○	○		◎			○	
日本語の文法A	2	選択		国語教師になるための国語文法（学校文法）を理解すること、また、自分たちの頭の中に備わっている母語（日本語）を見つめ直すことによって、言葉に対する分析力や論理的思考力を養うことを目的とする。母語は無意識のうちに獲得してしまうため、外国語として学ぶ英語と違い、言葉の規則をうまく説明できないことが多い。そのため、学校文法を鵜呑みにして暗記するだけになってしまいがちだが、自分が学んできた学校文法を批判的に見直すことで疑問点を見つけ、外国語としての日本語教育における文法も視野に置きつつ、疑問点を論理的に解明していく。		○	○		◎			○	
日本語の文法B	2	選択		日本語の文法bでは、外国人に日本語を教えるための日本語文法を学ぶ。まず、形容詞や動詞などの品詞、活用、文の特徴と種類、文の成分などを学ぶと同時に日本語学習者がどのように文法を学ぶのか、初級日本語の教科書からも概観する。そして、得た知識を基に実践的な文法の教え方について考える。また、テンス、アスペクト、ヴォイスなどは日本語教科書でどのように教えられているのか、簡単に概観します。テキストを中心に授業をすすめる。授業では講義形式だけではなく、ディスカッションの時間も多くある。積極的な参加が求められる。		○	○		◎			○	
日本語の語彙･意味	2	選択		この授業では、日本語学の専門的知識として日本語の語彙論・意味論について幅広く学ぶとともに、日本語教育の視点及び国際的な視野からも日本語についての理解を深める。具体的には次の通りである。 (1) 語彙論の基礎的な事項を理解し、説明できる。 (2) 語の意味論の基礎的な事項を理解し、説明できる。 (3) (1)と(2)を用いて、日本語表現を分析し、説明することができる。 この授業では、日本語の語彙を、語の内部構成や意味、語彙の体系、計量的分析などの視点から概観する。語彙をこれらの視点から考えることで、日本語の語彙・意味のさまざまな面を理解し、日常的な表現を自分で分析したり説明したりできるようにする。日本語教員や国語教員を志望する履修者や日本語学とその関連分野で卒業論文を書く履修者にとっては、さらに文献を読み、自分で考察を進めるための基礎になる。		○	○		◎			○	
日本語の音声	2	選択		この授業では、日本語音声学の基礎知識を身につけることを目標としている。 日本語教育のための音韻・音声体系を学ぶ。音声学とは何か、についての理解から始め、音声器官、日本語の音韻、国際音声記号、拍、アクセントなど、多くのトピックについて学修する。日本語の音声に関する理論や知識を受動的に学ぶのではなく、自分自身の音声を客観的に観察し、内省することを通じて音声学的知識を身につける。教員による講義だけでなく、ペア活動やグループディスカッションなどの演習形式で授業を進める。		○	○		◎			○	
英語学概論A	2	選択		言語は一見すると無秩序に思えますが背後には規則性が潜んでいる。この授業では音声学（個々の音声の特徴・発音法・音が連続する場合に起こる様々な現象）、形態論（単語の内部構造・造語法）を扱い、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけだし、英語の仕組みを明らかにする。また、英語史（英語の歴史的変遷、とくに発音や語彙や文法の歴史的変化）についても解説する。英語学に関する予備知識を前提にしない講義である。	○		◎				○		
英語学概論B	2	選択		言語は一見すると無秩序に思えますが背後には規則性が潜んでいる。この授業では統語論（句の構造・文の構造）、意味論（単語の意味・文の意味）を扱い、英語の背後に潜んでいるさまざまな規則性を見つけだし、英語の仕組みを明らかにする。英語に関する興味深い言語事実も提示し、これまで学校で習ってきた英文法の考え方を批判的に検証し、科学的な文法理論を紹介する。また、国際共通語としての英語の実態についても解説する。英語学に関する予備知識を前提にしない講義である。	○		◎				○		
英語演習ⅠA	2	選択	○	標準的な英文を正確に読んで理解できる。学習した語彙や文法を活用して、英語で質疑応答ができる。日本と世界の文化・風習・考え方についての英語表現を習得すると同時に、文化比較によって視野を広げ文化への理解を深める。			○			◎			
英語演習ⅠB	2	選択	○	英語が初級レベルの日本のアニメーションの日本語と英語のスクリプトの比較を通して、日常的な英会話の表現を身につけることを目標とする。また、日本語の概念や日本人に特有のやりとりが英語でどのように表現されたり置き換えられたりしているかにも着目し、日米文化の違いを理解する。			○			◎			
英語演習Ⅱ	2	選択		英語が中級レベルの日本のアニメーションの日本語と英語のスクリプトの比較を通して、日常的な英会話の表現を身につけることを目標とする。また、日本語の概念や日本人に特有のやりとりが英語でどのように表現されたり置き換えられたりしているかにも着目し、日米文化の違いを理解する。			○			◎			
中国語コミュニケーションⅠ	2	選択		初めて中国語を習う学生（中国語ⅠＡの履修者も含む）に短期間で中国語の発音・常用単語（700語）及び基本的な文法知識を堅実に身につけさせる。この授業では、初級レベルの教材を総合的に学習し、発音練習を繰り返しながら順次に会話の練習をしていく。実用的な中国語コミュニケーション能力を身につけることを目標とする。 ピンインを用いて、発音を集中的にひと通り学び、豊富な会話練習問題を通して、本文に出た重要表現を中心に口慣らしをし、表現力を身につける。 具体的な進行については事前予習（テキストを通読、附則CDを聞く）、授業中学生同士で会話練習、相互チェック、4 回小テストを実施し、学生のレベル、知識点の難易度をチェックしながら、学生の知識拡充の強化を図る。			◎				○		
中国語コミュニケーションⅡ	2	選択		中国語コミュニケーションⅡでは、中国語コミュニケーションⅠを履修し、基本的な中国語の発話を修得した学生を対象に、中国語の表現とその使用法について場面ごとについて学習する。そうした学習を通じて中国語によるコミュニケーション能力を高めることを目標とする。 設定された場面で使用される文型、文法を理解し、その運用能力を高める練習を行う。その際に合わせて、背景となる中国文化についても学習し、中国語によるコミュニケーション能力を高める。			◎				○		

	クリティカル･リーディングA	1	選択	○	平易なものから難解なものまで、様々な文献をクリティカルに読み、思考することによって、文献読解の能力を高め、文献から獲得した知見によって、様々な文化に対する理解を深めることを目的とする。また、それぞれの文献の持つ文化的社会的背景についても考察することを通じて、文化的社会的現象への幅広い理解力を養う。文献を通じて得た思考力が、さまざまな文化的背景を持つ人びとが集まるグローバルなコミュニティで、寛容さと想像力を豊かに備えたコミュニケーションをとる力を涵養することが期待される。					○	◎			
	クリティカル･リーディングB	1	選択	○	平易なものから難解なものまで、様々な文献をクリティカルに読み、思考することによって、文献読解の能力を高め、文献から獲得した知見によって、様々な文化に対する理解を深めることを目的とする。また、それぞれの文献の持つ文化的社会的背景についても考察することを通じて、文化的社会的現象への幅広い理解力を養う。文献を通じて得た思考力が、さまざまな文化的背景を持つ人びとが集まるグローバルなコミュニティで、寛容さと想像力を豊かに備えたコミュニケーションをとる力を涵養することが期待される。					○	◎			
	国際文化プロジェクト	2	選択		この授業は、ジェンダー平等に関する社会実践を促すプロジェクト学習である。社会の現状をふまえて自分が設定した課題について、複数人と協力しながら、社会に発信しうる成果物を制作する。この取り組みを通じて、多様な価値観や思考様式を持つ人々と協働し、グローバル社会において課題を発見して解決に取り組む力を目指す。	○						○	◎	
	韓国語コミュニケーション（話す・聞く）Ⅰ	2	必修	○	この授業では、社会づくりに貢献できる人材育成と目標のもと、大学内の人、もの、こと、場所について深く理解し、その内容を学内外（オープンキャンパスに参加する高校生も含む）に韓国語で表現することができるようになることを目指す。 初級初心者レベル。韓国語による、ある社会的活動を実現するために必要な言語、文化、社会について学習者が主体的に学ぶ授業である。したがって、コミュニケーション能力をコミュニケーションする中で学ぶことになる。			○	○			◎		
	韓国語コミュニケーション（書く・読む）Ⅰ	2	必修	○	この授業では、下記の項目を目標とする。 1. ハングルを正しく読んだり、書いたりすることができる。 2. キャンパスについて情報を収集・取捨選択し、簡単な紹介文を書くことができる。 3. 魅力が伝わるようなレイアウトやデザインを工夫してポスターにまとめることができる。 4. ハングルの入力方法を身につけ、自分に必要な単語を辞書アプリなどで調べることができる 。 韓国語の文字（ハングル）から学ぶ受講生を対象としている。クラスメートと協働しながら成果物を作る過程で、韓国語を正しく読み・書けるようになることを目指す。キャンパスを観察し、各自のおすすめやお気に入りの場所についての簡単な紹介文を加えた「キャンパス紹介ポスター」を作成する。			○	○			◎		
	韓国語コミュニケーション（話す・聞く）Ⅱ	2	必修	○	この授業では、社会づくりに貢献できる人材育成と目標のもと、自分のキャリア形成過程を韓国語で表現することができるようになることを目指す。 初級初心者クラス。韓国語コミュニケーションⅠAで学んだことを土台に、韓国語による、ある社会的活動を実現するために必要な言語、文化、社会について学習者が主体的に学ぶ授業である。したがって、コミュニケーション能力をコミュニケーションする中で学ぶことになる。日常生活や、自信の過去の経験、未来の願望などについてまとまった会話をすることを学ぶ。最終的には成果物をまとめることになる。			○	○			◎		
	韓国語コミュニケーション（書く・読む）Ⅱ	2	必修	○	この授業は、下記の項目を目標とする。 1. 大学入学後の自分自身を丁寧に振り返り、「〇〇と私」（または「私にとっての〇〇」）という 　タイトルの文章にまとめることができる。 2. 段落のある文章を読んで理解したり、正書法に従って正しく書くことができる。 3. ハングルの入力方法に慣れ、正しく入力することができる。 4. 効果的なレイアウトやデザインを工夫し、まとめることができる。 成果物を作る過程で、韓国語を正しく読み・書ける（入力できる）ようになることを目指す。このクラスでは、大学入学後の自分自身を丁寧に振り返り、「〇〇と私」（あるいは「私にとっての〇〇」）というタイトルで、まとまりのある文章を書き、最終的にレイアウト・デザインを工夫した記事に仕上げる。			○	○			◎		
	韓国語コミュニケーション（話す・聞く）Ⅲ	2	選択	○	この授業では、クラスの人について深く理解し、職業を含めた将来について語り合うことができる ようになることを目指す。 韓国語コミュニケーションⅡAで学んだことを土台にして、将来就きたい職業や将来の夢について、やりとりをし、発表できるまでの言語能力を身につける。 具体的には、身近な人から情報を入手することからはじめ、同時に自己を分析し、どのように自己を語ることができるかも考える。そこからインタビューを通じて情報をやりとりし、その結果を成果物としてまとめることを目標とする。			○	○			◎		
	韓国語コミュニケーション（書く・読む）Ⅲ	2	選択	○	この授業では、下記の項目を目標とする。 1. クラスメートについて知り得たことの中から、クラスの皆に伝えたい内容を取捨選択し、 　自分の意見を加えて文章化することができる。 2. 自分に必要な単語を辞書アプリなどで調べることができる。 3. 韓国語の正書法に従って、まとまりのある文章を書くことができる。 4. 韓国語のキーボードに慣れ、正確にタイピングすることができる。 成果物を作る過程で、韓国語を正しく読み・書く（入力する）力を磨くことを目指す。連携科目である「韓国語コミュニケーションⅢa」の「実現したい生き方や職業」に関するインタビュー活動を基に、集めた情報の中から皆に紹介したい内容を取捨選択し、自分の意見を加えて文章化する。最終的な成果物はインタビュー協力者に贈るとともに、クラス内で共有し、学内における韓国語コミュニティ創りにつなげることを目指す。			○	○			◎		
	韓国の歴史	2	選択	○	他国の歴史を学ぶことはその国の現代社会(政治、文化、日常生活など)を理解することにおいて必要不可欠な要素である。このような問題意識に基づき、本講義では古代から現代に至る韓国の歴史に関する基礎的理解を提供する。厳しい日韓関係により、隣国でありながら、日本と韓国ではお互いの歴史を偏見なく学ぶことが非常に難しい状態である。しかし、今後、両国の相互協力を深めるためには、お互いの歴史を政治的立場から離れ、学問的に分析し、理解することが必要である。朝鮮半島の最初の国はいつ立てられたのか、高麗と朝鮮時代の政治制度や文化はどう違うのか、中国や日本との関係はどう発展してきたのか、植民地政策と独立運動はどう進んだのか、なぜ朝鮮半島は分断されたのか、韓国の民主主義はどう定着したのかなど、今の韓国社会を理解するために必要な歴史的知識を学ぶとともに、歴史に対する自分の意見を論理的に説明する力を育てる。	○		◎						
専門科	韓国の社会	2	選択		本講義では韓国の伝統と風習、政治、経済、様々な社会問題に関する基本的理解を提供する。厳しい日韓関係により、日本では韓国社会を、韓国では日本社会を学ぶ機会が少なくなっている。しかし、今後、両国の相互協力を深めるためには、お互いに対する偏見のない理解が必要である。韓国の伝統と日常生活は日本とどう違うのか、韓国は民主主義をどうやって勝ち取ったのか、韓国の急速な経済発展が可能だった理由は何か、その裏にどのような社会問題が存在しているのか、韓国のドラマや歌はこのような社会像をどう表現しているのかなどのテーマを社会学的視点から分析することで、今後日韓比較を可能にする基礎を固める。	○		◎						

目群Ⅱ（韓国に関わる言語・文化・社会）	韓国の文学	2	選択		韓国の文学（小説、随筆、詩）を読んで、韓国の文化、歴史、社会、政治などいろいろな側面を垣間見る。文学表現を通して文学作品に対する鑑賞力を養い、文化や国の違いを正く理解する。 （１）授業に関連する視聴覚教材（原作がアニメや映画化されたもの）などを利用する。 （２）グループを作り、発表や意見交換などを行う。 （３）毎回の授業の振り返りとして、ワークシートを毎回提出することで、双方向の意思疎通を図る。 受講者は自分の興味のあることについての発表も行う。授業はおおよそ下記の計画で行うが、学習効果を高めるために、内容や順序を変更することがある。	○		◎						
	日韓通訳技法Ⅰ	2	選択	○	この授業の目標は次の通りである。 1. 通訳の基礎（種類・求められる知識・技術等）がわかる。 2. ごく身近な話題かつ比較的易しい内容について、韓日逐次通訳ができる。 韓国語初・中級レベルの学生を対象にしたクラスである。「通訳」の基礎的な知識（種類・求められる技術・日韓通訳の歴史等）を学ぶ。また、通訳者の疑似体験として、ごく身近な話題かつ比較的易しい内容の映像を用いた韓日（日韓）逐次通訳に挑戦する。	○		◎					○	
	日韓通訳技法Ⅱ	2	選択		この授業の目標は次の通りである。 1. 身近な話題について、「相手に伝える・伝わる」ことを重視した日韓（韓日）逐次通訳ができる。 2. 韓国語・日本語の語彙力・表現力・音声表現力を高めることができる。 身近な話題を素材に、「相手に伝える・伝わる」ことを重視した日韓（韓日）逐次通訳の訓練に取り組む。実践の後、日本語・韓国語特有の表現をいかに伝えるか（省略・補足の要否等）についてペア・グループで話し合い、さらに実践を重ねながら、学びの定着を目指す。	○		◎					○	
	日韓翻訳技法Ⅰ	2	選択	○	この授業の目標は次の通りである。 1. 翻訳がどのように行われるものなのか、情報を収集・話し合いを経て、理解を深める 2. クラスメートと協働して韓日翻訳を実践し、より良い翻訳について考える 翻訳の基礎（翻訳に関する知識･技術、文体、話し言葉･書き言葉の翻訳上の特徴についての知識など）を学ぶとともに、ペア・チームでの韓日翻訳に挑戦し、その過程で個人の翻訳能力を伸ばす。成果物として韓国の絵本を翻訳し、韓国語がわからない人たちにその絵本の魅力を届けることを目指す。	○		◎					○	
	日韓翻訳技法Ⅱ	2	選択		この授業の目標は下記の通りである。 1.「翻訳」に関わる仕事（種類、求められる知識・技術等）がわかる 2. 身近な日韓・韓日の翻訳物を観察・記録し、日韓両言語の語彙・表現力向上につなげることができる 3. 観察を通して得た気づきをクラスメートと共有し、より良い翻訳について考えを深めることができる 4. クラスメートと協働して、翻訳物を完成させることができる 前半は、「翻訳」に関わる仕事や「翻訳物」の調査・観察、各自の気づきを共有し、「翻訳」に対する理解を深める。また後半は、クラス全体やペア・グループで協働し、日本語から韓国語（または、韓国語から日本語）への翻訳物作成に取り組み、翻訳（翻訳チェック）について、実践を通して学ぶ。	○		◎					○	
	日韓比較文化	2	選択	○	この授業では、日韓比較文化を例に、多言語から複文化にかかわる文化の多様性、可変性を理解し、現時点での自己の文化観を構築することを目標とする。尚、アカデミック・ライティングも本授業の目標のひとつである。 学習者自らが文化事象について観察し、分析し、比較する「高次思考力」や、他の学生と協働して学習を進める「協働力」、ＩＴなどを活用して情報を収集したり、発信する「情報活用力」など、２１世紀を生き抜く力の育成が対象となる。尚、１年次、２年次の「韓国現代文化」で扱った内容も重ね合わせながら授業を展開する。	○	○	◎						
	韓国語プロジェクトA	2	選択	○	この授業は、韓国語を通じて社会実践を進めていくプロジェクト学習である。自分がおかれている社会の中で、自分が設定した課題について、韓国語を活用し、他者と協働しながら成果物（動画など）を制作し、社会に発信していく。 この授業では、学生が自分の置かれている社会を認識し、課題（例：韓国人留学生に役立つ生活情報の発信など）を把握するところから始まる。その問題を解決するために計画を立て、調査・分析し、何かしらの成果物を制作し、公開する。この一連のプロセスは他者との協働によって実現される。			○				○	◎	
	韓国語プロジェクトB	2	選択	○	この授業では、韓国語を通じて社会実践を進めていくプロジェクト学習を行う。自分がおかれている社会の中で、自分が設定した課題について、韓国語を活用し、他者と協働しながら成果物（動画など）を制作し、社会に発信していく。本年度は（韓国）仁川大学とのオンライン交流を通じて、協働でプロジェクトを進める。したがって、韓国語を使用して主体的かつ積極的にコミュニケーションし、協働する姿勢、態度は必須である。 この授業では、学生が自分の置かれている社会を認識し、課題を把握するところから始まる。その問題を解決するために計画を立て、調査・分析し、何かしらの成果物を制作し、公開する。この一連のプロセスは他者との協働によって実現される。			○				○	◎	
	韓国語検定演習Ａ	2	選択		韓国語１Ａ（既習者クラス）の履修者を主な対象としているが、初めて検定を受験したい学生も含めて全員合格を目指す。毎年６月に実施されるハングル能力検定及び７月のTOPIKⅡ級以上の合格を目指す。 授業では「ハングル能力検定４，５級」及びTOPIKⅡに関する語彙・文法などを集中的に学習し、基本的に毎回暗記を行い、その後模擬問題に挑戦する。			○	◎					
	韓国語検定演習Ｂ	2	選択		韓国語１Aの修了者を対象とし、毎年１１月実施される「ハングル能力検定」４級及び３級、１０月TOPIKⅡ級以上の全員合格を目指す。履修者は、１１月の「ハングル能力検定」３級以上（４級併願可）を全員受験しなければならない。 「ハングル能力検定」３級以上の合格を目指し、発音から文法的な問題までを学習する。問題演習・毎回語彙暗記を中心に取り組み、試験終了後は、これまで学習した語彙と新しい文法を学び、作文や読解学習を行う。			○	◎					
	韓国語検定演習Ｃ	2	選択		既に韓国語1A及びBの修了者を対象とし、毎年６月実施される「ハングル能力検定」３級並びに７月のTOPIK3 級以上の合格を目指す。なお履修者は、６月の「ハングル能力検定」３級以上（４級併願可）または７月のTOPIKのどちらか必ず受験しなければならない。 「ハングル能力検定」３級以上の合格を目指し、問題演習・毎回語彙暗記を中心に学習し、試験終了後は、これまで学習した語彙と新しい文法を学び、作文や読解学習を行う。			○	◎					
	国際文化演習I	2	必修		3年次に履修する。これまで基礎演習で培ったアカデミックスキルを踏まえ、担当教員の指導のもとで、各自が課題に取り組み、研究発表や議論を行う。			○			◎		○	

専門科目群Ⅲ（ゼミ研修・実践）	国際文化演習Ⅱ	2	必修		3年次に履修する。国際文化演習Ⅰに続き、担当教員の指導のもとで、各自が課題に取り組み、研究発表や議論を行う。			○			◎		○	
	国際文化演習Ⅲ	2	必修		4年次に履修する。各自が選択した担当教員の指導のもとで、「卒業論文」または「卒業制作」をまとめるための準備を行う。			○			◎		○	
	国際文化演習Ⅳ	2	必修		4年次に履修する。各自が選択した担当教員の指導のもとで、「卒業論文」または「卒業制作」の仕上げを行う。			○			◎		○	
	卒業論文	4	選択	○	卒業論文とは、演習における研究指導の成果を基にして、学生各自が自らの独自の研究・調査を学術論文の形式に従ってまとめるものである。卒業論文を履修した学生は演習担当教員より、論文作成の指導を受けることになる。			○			◎		○	
	卒業制作	4	選択	○	卒業制作とは、演習における研究指導の成果を基にして、学生各自が自らの独自の研究・調査を成果物としてまとめるものである。卒業制作を履修した学生は演習担当教員より、制作の指導を受けることになる。			○			◎		○	
	コミュニケーション・インターンシップ	3	選択		この授業は、本学の姉妹大学で実施される日本語教育実習のインターンシップである。海外研修は約１０日間の予定でおこなわれる。ただし、事前事業が約１０日間ある（約３０コマほど）。「日本語を教える」「日本文化を紹介する」という活動を通して日本という国、文化、言語を外から見ることでグローバルな視野を身に付けることをこの研修の目的とする。今年度は台湾での実習を予定しているが受け入れ可能か確認後に実施が決まる。							◎	○	
	国際文化研修A	2	選択		研修地となる国や地域の文化を、事前に勉強した上で、現地において身をもって体験し、新たな知識と視野を獲得することを目的としている。海外研修は、2年次・3年次留学の準備としての意味もある。各研修の課題を学ぶと共に、提携大学の学生との交流を深める。 海外の、主に提携大学で実施されるプログラムで研修を行う。研修は、オリエンテーション、事前授業、研修地での活動、事後指導、レポート提出から構成される。基礎演習などで成果発表を行う。	○		◎				○		
	国際文化研修B	2	選択		この授業では、研修地となる地域の文化を事前に勉強した上で、現地において身をもって体験し、新たな知識と視野を獲得することを目的としている。また、そこから日本文化の過去・現在・未来について考えを深め、文化観、日本観を形成する一助となることを目指す。 国内に設定されたプログラムで研修を行う。研修は、オリエンテーション、事前授業、研修地での活動、事後指導、レポート提出から構成される。研修によっては、大学祭での発表を行う場合がある。	○	◎					○		
	国際法	2	選択		「国際法」とは、主に国家間関係を規律する法のことであるが、慣習法が多く存在するなど、その内容はわかりづらい。しかし、数多くの戦争を反省して人間が作ってきた、国際社会の平和のために必要不可欠なものである。本授業では、国際社会において「法」がどのような役割を果たしているのか、国際平和にどのように役立っているのか、という観点から国際法の基本構造と役割を学ぶことが目的である。国連を中心として国際社会の緊密化が進む現在、国際法が関係する範囲は多岐に及ぶが、その主たる分野を具体的に扱いたい。	○							◎	10,16
	国際経済学	2	選択		本講義では前半を国際マクロ経済、後半を貿易論の理論的説明を行う。国際収支の見方を学び日本の経済構造の変化を読み取る力を身につける。国際収支を通して世界経済を概観し、経常収支の不均衡問題や経済発展における貿易構造の変化について考察する。さらに、為替レートの基礎知識を学び、国際経済体制の歴史的経緯と現在の国際経済問題の理解を深める。 　貿易論では常に自由か保護かの選択の中で世界経済が揺れてきた事実を抑えながら理論的説明を試みる。また経済統合理論を利用して、ＦＴＡやＥＰＡの経済効果について考える。そして、グローバル化の進展とともに資金も労働も移動する。これら生産要素の国家間移動の経済効果について理論を使って理解を深める。	○							◎	8,10
	国際関係論	2	選択		到達目標は、国際関係論を学ぶのに必要な基礎知識を習得することである。国際関係研究には様々なアプローチがあるが、本講義では主要国家間の外交関係の歴史をたどる。受講者には、国際関係の基本用語・概念を理解し、今日の国際社会がどのようにして形成されたかを考える一助としてもらいたい。 第一に、主権国家システムが誕生してから現代に至るまでの国際関係の来歴を振り返る。第二に、現代国際関係のイシューについて知る。但し、受講生の理解度に応じて、授業計画の項目を精選する。また、シラバスにはないが、時事問題について解説する場合もある。	○							◎	10,16
	翻訳の基礎(英日)	2	選択		英文和訳を中心に、翻訳のスキルを身に付けることを到達目標とする。翻訳においては、まずは文法的に正確であることを前提に、訳文のコンテキスト（歴史背景と社会環境）に重点を置く。誤訳はなぜ頻繁に起こるかを様々な観点から探り、日本語使用者が誤りやすい項目を中心にして講義を進める。 具体的な例文を用いて、翻訳作業を実施し、基本的な翻訳テクニックを習得する。とくに日本語使用者が誤りやすい項目を中心とする。予習して宿題を提出してもらう。他に授業時間内に小テストなどを実施し、宿題の内容やポイントをきちんと理解しているかを確認したりする。			◎					○	
	日中翻訳技法Ⅰ	2	選択	○	中級以上レベルの中国語学習者（中検3級以上）と日本語学習者（N2以上)を対象として、週に一回授業を行う。翻訳作業の手順、日本語と中国語の間の翻訳の特徴を理解するとともに、様々な実践的トレーニングを通じて翻訳技法を習得し翻訳の基礎を固めること、及び総合的なコミュニケーション能力の向上を目標とする。 日中・中日翻訳をするための基本的な方法と技法を教授する。日本語と中国語の言語的相違点及びその背景となる文化的相違点を比較し、両言語の特徴を理解させた上、様々な実践的トレーニングを行って翻訳のプロセスと技法を考察する。	○		◎					○	
	日中翻訳技法Ⅱ	2	選択		国際化時代では、さまざまな人材、とりわけ国際色豊かな人材が必要である。中国の現状では、改革開放の深化につれて、外国と政治、経済、文化など各分野での交流がますます活躍しているため、通訳・翻訳人材が大いに必要となっているが、その人材不足がいまは社会発展の需要に適応できない矛盾が大変際だっている。本講義は翻訳の基礎知識から入手し、多くの分野と関連のあるさまざまな内容のトレーニングを通じ、基本技能を身につけることに重点を置いて、仕事に実用的な日中翻訳の能力を養成する。 本授業は翻訳理論以外に、主に大量の日中・中日の翻訳の練習を通じて、基本的な翻訳の仕方や技巧を身につけることに着目する。政治・経済・文化・教育・科学技術・文学などさまざまな分野の内容を選んでトレーニングする。日中両方の言語を使って勉強者の翻訳レベルの向上に努めること。	○		◎					○	

日中通訳技法Ⅰ	2	選択	○	中級以上レベルの中国語学習者と日本語学習者を対象とし、ビジネスシーンに役立つ基礎的な通訳スキルと知識を習得し、中国語と日本語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目標とする。 様々なビジネスシーンにおける日中・中日通訳の実践的なトレーニングを行う。予習としてキーワードとキーフレーズのインプットを求め、授業では、シャドウイング、リプロダクション、リテンション、サイト・トランスレーションなどの通訳訓練法を用いて、逐次通訳演習を行う。	○		◎					○	
日中通訳技法Ⅱ	2	選択		日中間の通訳に必要不可欠なことを講義とトレーニングを通して学ぶ。具体的には、通訳の基準、通訳と翻訳の違い、通訳作業のプロセス、通訳技能の基礎訓練（クイック・レスポン、シャドウィング）、自由に使いこなせる言葉を増やす訓練、リプロダクション、集中して聞く力、短時間記憶力、内容を抜粋して再現する力の養い方、リテンション、高度な集中力・キーワードとキーフレーズの把握の仕方、スラッシュ・リーディング、サイト・トランスレーション、サマライゼーション、ノートテイキングについて学ぶ。さらに、授業の後半では、逐次通訳の実践練習を行う。	○		◎					○	
日本語教授法(教授法)	2	選択		この授業では、日本語教員養成に関わる専門知識・スキルとコミュニケーション能力を身につける。そのために日本語教授法の基となる外国語教授法を理論にそって学び、教えるための知識を養う。そして日本語教育への応用として特にオーディオリンガルアプローチとコミュニカティブ・アプローチがどのように日本語教育に影響を与えたか理解できるようになり、今後の実習につなげる。上記以外に授業で扱う外国語教授法は、TPR 、ナチュラルアプローチ、CLL、VT法など、様々な教授法を扱う。また、日本語教育の多様性を考え分野別日本語教育、対象者別日本語教育についても扱う。脱教授法の観点からは、CEFRや「社会とつながる日本語教育」なども随時、ディスカッションしていきたい。日本語教員養成課程（副専攻）の必須科目となっている。到達目標は、日本語教授法を理解し、実践できる能力を身につけることである。				○				◎	
日本語教授法(ｺｰｽﾃﾞｻﾞｲﾝ･評価)	2	選択		この授業は、日本語教員養成課程（副専攻）の必須科目である。日本語のコースの基礎が設計できるようになり、さらに適切な学習評価ができるようになることを目標とする。前半は日本語教育におけるコースデザインの基本的な考え方（学習者のニーズ、シラバスの立て方、コースの学習目標と教え方等）を理解する。後半は、学習をどう評価するか（評価方法の種類、テスト作成の留意点、テスト以外の評価方法、フィードバックの仕方等）を理解する。 前半はコースデザインの概要を学び、学習者に合わせた目標、シラバス、スケジュール、教材、授業方法をどのように決めていくかを理解し、最後に仮想のコースデザインを作成してみる。後半は学習評価の基礎について学びながら、実際にどのような評価方法があるか、事例を見ながら理解を深め、仮想のテストを作成して理解を確認する。				○				◎	
日本語教授法(教材･教具)	2	選択		この授業では、主に教案作成に伴う「教材開発」を中心に学習して行く。ここでは、日本語学概論やその他の日本語科目で得た知識を基にし、日本語教育における実践的な教え方の技術を身につけるためにまず、教案作成に伴う教材の分析研究、教材の作り方、教具の使い方などを学ぶ。 このクラスでは、教材の分析はレベル別の教材、技能別の教材、マルチメディア教材を含む視聴覚教材などの分析と作成を行いう。そして、実際に教案を立て、教材を作成して発表してもらう。また、従来の教材開発に加え、これからの日本語教育に必要とされるテクノロジーを活用した教材開発についても学習する。この授業は日本語教育実習の準備コースと言えるので実習を行いたい学生は必ず履修すること。				○				◎	
日本語教育事情	2	選択		この授業の目標は以下の通りである。 １．日本語教育の5区分のうち、社会・文化・地域に関わることについて学ぶ。 ２．外国語・第二言語としての日本語を学ぶ／教えることに関する問題に関心を持ち、説明することができる。 ３．国内外の日本語教育の動向、その背景、課題を理解し、説明することができる。 日本語教育の5区分のうち、社会・文化・地域に関わることについて学ぶ。世界と日本の日本語教育事情については、その実例を、教員作成のDVD（ゲスト講師に対する教員のインタビュー）を聞きながら学ぶ。国内外の日本語教育の動向を概観し、今後日本語教育は国境を越えて、どのように広がっていくのか、自らがどのように関わっていくのかを考察する。				○				◎	
日本語教育実習Ⅰ	2	選択		この授業では、日本語教員養成に関わる専門知識・スキルと異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに日本語教育に関する理解とその実践を目指す。授業では言語の受容・理解能力、言語運用能力、社会文化能力、対人関係能力、などの講義が行われる。この授業の到達目標は、日本語を教える実践力の養成である。まず、教えるための知識を身につけ、教員のデモンストレーションにより、具体的な教え方を学ぶ。そして学期末には、学生が自分で教案・教材を作成できるようになることを目指す。学期末には１つの教案の提出がある。日本語教員養成課程（副専攻）の必須科目である。また、教室の設定や言語環境なども考慮に入れ、実習を行う。また、学んだことを実践できるようにチューター制度を利用し、留学生に教える。そして、その際にチューターを分析し、自己点検能力が身に付くようにする。				○				◎	
日本語教育実習Ⅱ	2	選択		この授業では、日本語教員養成に関わる専門知識・スキルと異文化コミュニケーション能力を身につけるとともに日本語教育に関する理解とその実践を目指す。この授業の到達目標は、日本語を教える実践力の養成である。授業見学や実践を通して日本語教育プログラムの理解と実践を学び、教室・言語環境の設定を学ぶ。最終的には、学生が自分で教材を分析し、教案・教材を作成し、教育実習ができることを目指す。また、この授業での学内日本語教育実習を終え、学外でも日本語を教えることができるような実践力を身につける。学期末にはいくつかの教案作成の中から２つ以上の推敲された教案の提出がある。また、模擬授業、実習など実践的な活動が始まる。日本語教員養成課程（副専攻）の必須科目である。また、教室の設定や言語環境なども考慮に入れ、実習を行う。そして、その際に授業を分析し、自己点検能力が身に付くように指導する。				○				◎	
異文化間コミュニケーション論	2	選択		この授業では、グローバル化がすすむ社会や世界との関わりの中で、文化背景の異なる人々との円滑なコミュニケーションを行う力を育成することを目指す。さらに外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について基本的な理論をディスカッションしながら学んでいく。まず、異文化間コミュニケーションとは何かを理解し、西洋文化、特に米国と比較しながらディスカッションを中心に学んでいく。さらに英語が使われている国・地域の文化を通じて、表現力（言語と非言語）への理解を深め、言語教育の授業に資する知見を身に付ける。この授業は、英語・国語科目の教職、日本語教員養成課程（副選考）、児童英語教育の必須科目であるため、コミュニケーション教育、異文化間教育の観点からも学ぶ。また、最近の異文化間コミュニケーションの理論である異聞化間トレランスや留学生のためのメンタルヘルスも学ぶ。	○						◎	○	10
第二言語習得論	2	選択		このコースでは、主に日本語教育、英語教育を視座として第二言語習得に関しての基本的な理論とその応用について学んで行く。また教授法の観点からどのように教えればより効果的か、どのようなアプローチで教案、教材を考えるのかについてもこのクラスで扱って行く。同時に、第二言語習得の観点からどのように言語を学んでいくべきか考える。 授業では第二言語習得の理論を学んだ上でディスカッションを中心に授業を進めていく。まず、我々は言語をどのように処理し、記憶するのか、学ぶ。そして母語はどのように習得し、第二言語はどのように習得していくか概観していく。特にクラッシェンの５つの仮説について概観したのち、母語の転移についてディスカッションしながら学んでいく。	◎							○	

専門科目群Ⅳ（言語・文化・社会関連）	社会言語学	2	選択		社会言語学は、「言語」と「社会」の相関関係を総合的に研究の対象とする。日常的に生活する地域、階級、性別、など様々な社会的要因との関係性で言語の多様性を見る。社会言語学の研究領域における主要なテーマに関して基礎的理解を深める。 ことばの変化と社会的要因の関わりを明らかにし、社会言語学の基礎的理解を深めていく。社会言語学についての概説から始め、様々なテーマについて考察を進める。それぞれのテーマごとに具体的な例をあげ、ディスカッションを通して理解を深める。	◎							○	
	言語学	2	選択		この授業は「意味の広がりと意味の理解」をテーマとし、メタファーなど認知言語学的な意味論と、言葉の理解に関する語用論のいくつかのトピック、人間の言語の特質を扱う。授業では日本語と英語の例で説明するが、他の言語にも見られる現象なので、日本語についての専門的知識を学ぶだけでなく、国際的な視野から日本語を見ることや多様な表現方法を理解することにも役立つ。到達目標は、(1)認知意味論の基礎概念について理解し、説明することができる、(2)語用論の基礎概念について理解し、説明することができる、(3)人間の言語の特質について理解し、説明することができる、である。	◎							○	
	家族論	2	選択	○	先進諸国の中でも、ジェンダーギャップが大きいと言われる日本の家族の現状を、歴史的な観点を踏まえながら論じる。テキストを読み進めながら、現代社会における家族の多様な在り方や問題点について深く理解する。テキストの各テーマに関して、諸外国との比較（アジアと欧米が中心）を行い、その学びを通じて日本の現状についての理解を深める。授業の終盤には、講義や文献講読を通じて考えたことを、グループディスカッションによって発信し、履修者相互の意見交換を通じて自身の考えを固める。	◎								5
	アジアの女性論	2	選択		アジアの国や地域は、経済の発展段階がそれぞれ異なるだけでなく、社会や文化、宗教、言語や民族など実に多様である。そのなかで織り成されるジェンダー関係も一様ではなく、またグローバル化の流れのなかでも変動しているといえる。この講義では、アジアの様々な国や地域を取り上げ、そこでの暮らしや社会、文化や宗教、慣習などについて理解を深めるとともに、アジアの女性たちが置かれた状況についてジェンダーの視点から学んでいく。	○		◎						5
	アジア国際関係論	2	選択		アジアの近代は、西洋の侵略によって始まった。18世紀から19世紀にかけて、西欧諸国はアジアにおける植民地争奪戦を激しく展開し、なかでもアヘン戦争を契機として、東アジアは強制的に西洋の近代システムの中に引き込まれた。しかし、20世紀に入って世界文明の中心は、それまでのヨーロッパ北米地域から、確実にアジア太平洋地域に移動しつつある。 本講義では、まずは戦後のアジアと冷戦の起源について考察する。次いで、冷戦時代におけるアジア諸国の関係を再考する。さらに、冷戦の終焉と現代アジアの情勢を分析する。 講義の内容は多岐にわたるが、アジアにおける複雑な国際関係の過去から現在を主に分析し、アジアの国際関係の歴史を理解する同時に、アジアの一員である日本の国際戦略と将来像も提示したい。	○		◎						10,16
	中欧の社会と文化	2	選択		中欧（中央ヨーロッパ）とはヨーロッパのどの地域を指すのだろうか。地理的にみると、ヨーロッパの中央部に位置し、多様な人々が暮らす空間ということになる。歴史的にみると、神聖ローマ帝国やハプスブルク帝国が支配した領域といえる。現在の国名で言うと、オーストリア、ハンガリー、チェコ、スロヴァキア、ポーランド、スロヴェニア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナの全域、さらにウクライナ、ルーマニア、クロアチア、セルビア、イタリアの一部の社会と文化を理解することが授業の到達目標である。	○		◎						
	中欧地域文化研究	2	選択		中欧地域は近代以降、周辺の諸帝国の支配下に置かれ、国家としての独立を失った。第1次世界大戦後には独立を獲得（または回復）したが、第2次世界大戦後にはその多くが社会主義国となり、さらには冷戦終結に伴う再度の体制転換を経験して現在に至っている。このような共通の歴史的経験のもと、中欧には同じヨーロッパでも西欧とは異なる、民族的・文化的多様性に富む複雑な社会が形成された。この授業の目標は、映画やドキュメンタリーなどの映像資料を手がかりとしながら、19～20世紀の中欧地域の文化とその歴史的背景を知り、他地域とも比較しながらその特徴を理解することである。ポーランド、チェコ、スロヴァキア、ハンガリーのいわゆるV4諸国を中心とするが、多くの歴史的共通点をもつバルカン地域にも随時言及する。	○		◎						
	近代ｲｷﾞﾘｽ文学	2	選択		本授業では、近代イギリス文学の作品、特に詩や物語を原文で講読することを通して読解力を養うとともに、各詩人とその作品の理解を深め、さらに時代や社会と文学との関係についても学ぶことを目的とする。 初めにイギリス文学史の概略を学び、つぎに19-20世紀の代表的な詩作品を受講者で分担講読する。担当者は原文を訳すことはもちろん、その作品鑑賞や時代的意義などについても触れることが求められる。その発表をもとに、グループに分かれ作品の面白さや作品に流れる思想、歴史的背景などについてディスカッションし、理解を深める。	○		◎						
	漢文講読	2	選択		本授業は、受講生が漢文資料を読むための広い知識と訓読技能とを習得し、その背景となっている様々な社会的・文化的事象についての分析を通して、漢文が「国語」として位置づけられていることの意味を明確に捉えるとともに、中国や東アジア諸国の文化・歴史についても関心を持つようになることを目標とする。なお、この授業は国語科教員（中学校・高等学校）を目指す履修者においては、教科教育に関する基礎的・実践的な指導力を身につけることも目標とする。		○						◎	
	書道(書写中心)	2	選択		文字を正しく整えて書くという学習を通し、日常生活の中でも文字を意識して書くよう実践に結び付けたい。それが自信となり充実した生活ができるよう生涯学習の基盤を形成することがこの授業の目標である。 国語の基礎力として文字を正しく整えて書くために、文字に関する基礎的な知識を理解し、同時により高い書写能力を養う。そのために毛筆・硬筆を相互に取り入れ指導する。文字についての概説から始め、書道の用具･用材、漢字とその書体について理解したのち、具体的な書法について学ぶ。		○						◎	
	経済原論A	2	選択		この講義では経済学の基礎的な知識の習得を目標としている。とりわけ現代の経済にいたるまでの歴史的推移、市場メカニズムの内容、それを取り囲む政治制度などについて詳細に話していきたい。現代社会を理解したいと思うとき、やはりその背景にある大きな流れをつかんでおくことが必要である。学生諸君は本講義を受講することで現在の社会が置かれている位置づけと方向性について一定の理解を得られるもの思う。 市場経済とは何か、という問題からはじめ、各時代の重要な経済的な問題について概観する。	○							◎	8
	経済原論B	2	選択		この講義では、経済原論Ⅰないし A で学んだ基礎的な経済学的な知識をもとに、マクロ経済学、ミクロ経済学、財政学、国際経済学といった専門に進むための基礎をさらに深めていく。学生諸君はこの講座を受けえることにより、さらに高学年において学ぶ専門科目、あるいはゼミなどでの学びにスムーズに対応できると同時に、現実的な社会問題についての視座を獲得できるものと考えている。 帝国主義の時代以降の経済的な問題について、各時代の特徴を概観し、現代の問題までを考察したい。	○							◎	8

	地理学A	2	選択		地域の自然的基盤の解明をめざす自然地理学について主題別に講義する。高校地学の内容とも重なる側面があるが、「地学」を履修していなくとも、十分に理解が進むようにしたい。高校の地理歴史科教員および中学校社会科教員に必要不可欠な基礎的素養が身につくように授業を進める。本科目では内容を大きく分け、個別的に説明していくが、その際、自然環境の全体像が見失われないように心がける。深刻さを加える地球環境問題の抜本的な解決なくして人類に未来はないといわれて久しいが、本科目の受講によって少しで自然環境の全体像を理解できるようにしたい。	○							◎	
	地理学B	2	選択		人文地理学の理論と方法，人間生活，経済活動，現代的諸課題の分野について学ぶ。人文地理学の理論と方法では，地理学の科学としての展開や主要概念，研究の手法等について学ぶ。人間生活では，人間による環境認知や居住空間の構成等を，経済活動では，大分類された産業ごとにその地域的特色や空間構造を学ぶ。現代的諸課題については，現在及び将来の人類にとって解決すべき課題である，移民や民族，不平等，環境破壊，自然災害等の問題への人文地理学からの取組を学ぶ。	○							◎	
	地誌	2	選択		ローカルな地域と世界各地の地域の２つのトピックについて学ぶ。ローカルな地域については，事例地域の特徴とその形成過程について学び，身近な地域の地誌をまとめる方法を身につける。世界各地の地域については，世界の様々な地域の特徴を学び，多様な世界の文化や経済等を理解する。これらのトピックの学習を通して，現代世界に生きる人々が生活を営む様々な規模の地域とそれらのグローバルな結びつきについて考察し理解を深める。	○							◎	
	文化遺産	2	選択		「文化」は、担い手のそれぞれの世代で発展・改変・解体・再構築・再解釈を経ながら、次世代に伝達される。本科目では「遺産」という言葉を広く、前の世代からの「伝統(の継承）」として捉え、様々な民族誌的知見を用いて、世界各地での「伝統」の諸相について学んでいく。さらに「文化遺産」の概念や、多様な「遺産」の在り方について学んでいく。単に世界中の伝統や文化遺産に関する知識を得るだけではなく、現代社会やその未来においてそれらが持つ意義やはたらきについて理解することが到達目標である。	○							◎	
	生涯学習論	2	選択		21世紀の社会と教育に大きな影響を与えているユネスコ提唱の『生涯学習論』（1965年）に関する基本理念やその歴史的意義について認識するとともに、さらには今日にかけてユネスコの生涯学習の理念や「OECDの教育政策」の発展について正しく理解することが第一の目標である。とともに日本における「教育基本法」や「社会教育法」をふまえての「社会教育」の領域について理解するとともに、「博物館」と「学芸員」の役割について理解を持つことをねらいとする。さらに21世紀に入っての日本と世界の生涯学習の動向について関心をもちつつ、生涯学習の今日的課題の把握についても考察を進めていくことを目指したい。	○							◎	4
	ミュゼオロジー入門	2	選択		「ミュゼオロジー入門」の学習到達目標は、博物館に関する基礎的知識を理解し，専門性の基礎となる能力を養うことである。学習テーマは、博物館の定義、種類、目的、機能、博物館の過去・現在・未来、博物館における仕事と学芸員の役割・仕事、博物館に関わる法令、博物館学の目的・方法・構成、博物館学の歴史と現在、未来への展望などである。 主として講義形式で進められる。授業は、博物館の定義、種類、目的、機能、博物館の過去・現在・未来、博物館における仕事と学芸員の役割・仕事、博物館に関わる法令、博物館学の目的・方法・構成、博物館学の歴史と現在などを、下記の計画に従って講義する。なお、新着のニュースや話題、研究成果などを紹介するために授業の順序・内容を入れ替えることがある。	○							◎	4
	ミュージアムと展示	2	選択		展示の歴史、展示メディア、展示の諸形態、展示による教育活動等に関する理論および方法を学び、博物館の展示機能に関する基礎的知識・技術を習得することを目標とする。 展示の意味、目的、役割、政治性、社会性、歴史の講義を通して、博物館展示の理論について学ぶ。 展示の方法、展示解説の方法について、講義から学び、学内・学外の施設見学によって実見、体験する。 展示企画作成の演習を行い、実務的能力を習得する。	○							◎	4
	ミュージアムと情報・メディア	2	選択		「ミュージアムと情報メディア」の学習到達目標は、 総合メディアとしての博物館について、博物館が扱う情報とその技術について、博物館と著作権、個人情報保護法について学び、理解し、考察することである。 総合メディアとしての博物館について、博物館とはいかなるメディであるかを考える。博物館が扱う情報とその技術について、さまざまな業務の側面から考える。著作権、個人情報保護法について、博物館における利用やネット社会における側面から考える。なお、新着のニュースや話題、研究成果などを紹介するために授業の順序・内容を入れ替えることがある。	○							◎	4
	ミュージアムと教育	2	選択		博物館と来館者をつなぐ重要な役割を担う博物館教育の分野について、多様な視点から考察し、その意義を考える。 幅広い層の利用者を対象とする博物館。博物館における「教育」の分野を様々な視点から網羅的に紹介し、その目的と意識を考え、博物館が現在抱えている課題を見据えながら、今後の博物館教育のあり方を考察する。授業では学内にある城西国際大学水田美術館を含む、美術館事例を多く取り上げる。 博物館の理念からはじめ、展示の意義、利用者との関係などのトピックについて考えていく。	○							◎	4
	ミュージアム・マネジメント	2	選択		「ミュージアム･マネジメント」の学習到達目標は、 博物館の形態面と活動面における適切な管理･運営について理解し，博物館経営（ミュージアム・マネージメント）に関する基礎的能力を養うことである。学習テーマは、博物館の行財政制度、財務、施設・設備、組織・職員、博物館の使命・計画・評価、博物館の倫理、危機管理、広報・マーケティング、市民との連携、博物館同士の連携、他機関との連携、地域社会との連携などである。	○							◎	4
	ミュージアムの資料	2	選択		「ミュージアムの資料」の学習到達目標は、 博物館資料について理解し，博物館資料を収集・管理・研究・利用するための基礎的能力を養うことである。学習テーマは、博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、活用、およびそれらにおける課題などである。 授業形態は、主として講義形式で進められる。参加者が少人数の場合は、討論形式で行ったり、参加者の発表の機会なども設けたい。授業は、博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、活用、今後の課題などを、下記の計画に従って講義する。なお、新着のニュースや話題、研究成果などを紹介するために授業の順序・内容を入れ替えることがある。	○							◎	4
	ミュージアムと資料保存	2	選択		「ミュージアムと資料保存」の学習到達目標は、 博物館の資料保存について理解し，博物館資料を適切に保存・保管するための基礎的能力を養うことである。学習テーマは、温湿度環境、光と照明、室内空気汚染、生物被害、屋外環境、災害・事故などである。 授業形態は、主として講義形式で進められる。参加者が少人数の場合は、討論形式で行ったり、参加者の発表の機会なども設けたい。授業は、温湿度環境、光と照明、室内空気汚染、生物被害、屋外環境、災害・事故などを、下記の計画に従って講義する。なお、新着のニュースや話題、研究成果などを紹介するために授業の順序・内容を入れ替えることがある。	○							◎	4

	博物館実習Ⅰ	2	選択		館園実習の事前学習を兼ねて、学芸員の業務を学び、学芸員として必要とされる知識、技術の基礎・基本を修得することを目標とする。 学芸員の業務（調査研究、収集、展示、保存管理、展覧会企画、図録作成、教育普及、広報など）を学び、学芸員として必要とされる知識、技術の基礎・基本を修得する。 調査研究として、古美術・古文書などの取り扱い、計測と撮影、調書の作成について、講義と演習から学ぶ。作品の形態ごとの展示法を習得し、実践的能力を身につける。学内・学外の美術館・博物館施設の見学を行い、施設、保存環境、展覧会運営について学ぶ。			○					◎	4
	博物館実習Ⅱ	1	選択		「博物館実習II」は、博物館法にもとづく博物館または博物館相当施設において５日以上の実務を経験し、学芸員に必要とされる資質を高めることを到達目標とする。学習テーマは、学外の博物館における実習の事前準備、実習、事後の発表とレポート作成である。 事前の個別指導、学外博物館での実習、事後の発表会、個別レポート作成である。授業計画は下記のとおりであるが、各館の実習生の募集は、早いところでは前年度の10月から始まり、前年度1月頃に締め切る館もあるので、事前指導は「博物館実習I」の授業時に始める。前年度末のオリエンテーションと「博物館実習I」には必ず出席すること。			○					◎	4
	教育原理	2	選択		教育とは何か、その語源を押さえつつ、教育とは歴史的にどのように存在し現代にいたっているか、また２１世紀社会においてどうあるべきか、問題関心を共有しつつアプローチしていきたい。 なかでも近代日本における教育の歴史的発展をおさえつつ、さらに現代教育の骨格を形成している日本国憲法のもとで行われた戦後教育改革の意義と内容について正確な把握を行っていきたい。あわせて現代教育の政策的課題や学習と学校の今後の在り方についても考察を加えていきたい。 同時に世界に眼を転じて、西欧近代から現代への教育と教育思想の歴史的発展をおさえつつ、現代世界に受容されている「生涯学習論」の内実と意義を確認しつつ、OECDの国際学力調査の動向や欧米における教育改革の進展についても考察を加えていく計画である。	○							◎	4
	教育課程論	2	選択		学校の教育課程（カリキュラム）の国家的・大綱的基準である学習指導要領の中心的な内容（基本方針、特徴等）について、多角的に展望するための基礎的な知識や概念について概観する。この授業については、現代日本の教育課程の思想や教育課程編成の方法原理・理論を取り上げ、教育課程に関する基本的な概念、日本の教育課程の変遷の歴史や諸外国の教育課程改革を取り上げ、各時代・地域における教育課程の特徴、近年の教育課程開発の試みについて取り上げ、現在の教育課程が抱える課題について学習する。あわせて、それを基盤的に支える思想やそれに関連する基礎的な知識・理論、学校・地域の実態や教育改革の諸動向を踏まえつつ、学校現場において教育課程を編成・実施・評価・改善するための基本的な視点と実践力の基礎を身につけられるように展開していく。	○							◎	4
	教職論	2	選択		今後の教職科目の履修に際して、学校・教員に関する基礎的事項について理解しておくために、今日の学校教育が抱える様々な課題と、その主たる担い手である教員の役割や責任について外観する。この授業では、「教職とは何か」、「これからの教員に求められる資質・能力とは何か」、「教員の仕事と役割とは何か」、「どうすれば教員になることができるのか」、「教員は法律上どのような責任と義務（服務・研修・身分保障など）を負っているのか」、等の教職にかかわる基本的な事項について幅広く学習する。あわせて、教科・科目に関する知識を教えるだけでなく、広い視野にたち、思いやりのある人間性豊かな子どもたちを育成することが求められていることを理解できるように展開していく。	○							◎	4
	教育心理学	2	選択		この授業では「子どもの発達」と「子どもの学習とその指導」について基本的な理解を深めることを目的とする。特に「教育とは本来、個々の子どもに合わせた個別的行為ではないか」と仮定し、そうした視点から「授業」を考えてみる。 具体的な達成目標として「子どもの発達を生物的にも心理社会的にも適切に理解し援助できる」「子どもの学習指導についてその個人差に応じて計画し、指導できる」ことをめざす。 教師として子どもの発達を支援するには、どのような知識とスキルが必要となるのかに焦点をあて、子どもの発達的理解、発達課題、仲間関係の発達、発達と学校教育の関連について学習を進める。また、子どもの学習を促すには、学習にどう動機づけ、わかる授業をどう行うかに焦点をあて、学習とは、学習と授業の関連、授業の形態と適切な処遇、学習への動機づけ、わかるとは、覚えるとは、学習を促すことと評価の関係などを考えながら学習をすすめる。	○							◎	4
	特別のニーズ教育論	2	選択		この授業はインクルーシブ教育が通常学級において進められている現状を踏まえ、特別のニーズのある生徒への支援の方向性について学びつつ、特別支援教育の基本的な理解することを目的とする。特に、通常学級に在籍する“特別の教育的ニーズ”をもつ生徒の基本的な理解を前提として、特別の支援を必要とする生徒に対する教育課程や支援の方法、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性及び心身の発達、障害の有無に関わらず特別な教育的ニーズのある生徒の学習上の困難とその支援などを理解することを目指している。	○							◎	4
	教育制度	2	選択		「日本国憲法」のもと「教育基本法」や「学校教育法」等によって形成されている「現代日本の教育制度」に関して、正確な法律的制度的理解を持つことを目標とする。そのうえで日本における教育制度の歴史的発展に関して、戦前日本における「近代公教育の形成」について、さらに「戦後教育改革」において確立した教育制度の主要な領域や「中央・地方の教育行政」の基本的骨格について歴史的に認識することを目指していく。 あわせて現代社会の新たな諸課題に対応した教育政策ー「教育制度改革の基本的動向」について理解していく必要がある。そして今日における「学校と地域の連携促進」についての大切さを実践的に理解するとともに、感染症防止をはじめとした「学校保健」と「学校安全」さらに「防災教育」に関する確たる知識と理解を持つとともに、緊急時の危機管理の在り方について確たる理解を持つことを目標としていきたい。	○							◎	4
	教育方法論	2	選択		この授業は、「教員としての授業実践力」を修得するためにインクルーシブ教育の視点と「授業づくり」の関連性をもとに、各教科、総合的な学習の時間等の「よりよい授業づくり」に向け、授業形態の歴史的な変遷、授業を成立させるための基本的な指導方法・学習方法について説明するとともに、その方法の効果・問題点を整理し、授業研究（学習指導案の作成、模擬授業の実践、授業検討会）を展開することで教育実習時の授業場面に役立つ「授業づくり」とそれを実践する力を学習する。具体的には、授業場面の事例をもとに、「授業づくり」への理解を深めると同時に、その工夫・改善のあり方について検討し、より良い教育を創りだしていく基盤が身につくように展開していく。	○							◎	4
	国語科教育法Ⅰ	2	選択		中学校の国語科教育の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。（2）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想 像力を養う。（3）言葉がもつ価値を認識するとともに，言語感覚を豊かにし，我が国の言語文化に関わり，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」（中学校学習指導要領・平成２９年公示）とある。そこで、本授業では、この目標の意味するところを的確に理解するとともに、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、授業を行うことができるようになることを目標とする。				○				◎	4

教職・学芸員関連科目群	国語科教育法Ⅱ	2	選択		高等学校の国語科教育の目標は、「言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（1）生涯にわたる社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。（2）生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を伸ばす。（3）言葉のもつ価値への認識を深めるとともに，言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」（高等学校学習指導要領・平成30年公示を参照）とある。そこで、本授業では、高等学校の目標の意味するところを的確に理解するとともに、具体的な授業場面を想定した学習指導案を作成し、授業を行うことができるようになることを目標とする。				○				◎	4
	国語科教育法Ⅲ	2	選択		国語科教育の目標・内容・方法に対する認識を確固たるものとし、それらをふまえて教材研究・授業研究・評価といった学習指導の内容を構成することができる能力を身に付けることを目標とする。 中学校における国語科教育の目標・内容・方法を確認する。さらに、物語的文章・小説、説明的文章・論理的文章に分けて、それぞれ教科書教材をとりあげ、学習指導案を作成して模擬授業を行い、実践的に学ぶ。指導の実際については、アクティブ・ラーニングの導入、ICTの活用を視野に入れて考える。				○				◎	4
	国語科教育法Ⅳ	2	選択		国語科教育法Ⅰ～Ⅲで学んだことを総括し、教育実習に向けて国語科指導の能力を養うこと、実習後は、国語科教員となるために自身に不足していると思われる能力を把握して補充することを目標とする。 教育実習と並行して国語科の教科指導に関する事前・事後の指導を行う。履修生は、実習の予定を踏まえて教科書教材の研究を行い、学習指導案を作成して模擬授業と批評を行う。また、実習後に、実習中の教科指導を振り返り授業改善を試みる。最後に、国語科の新しい授業方法について学ぶ。				○				◎	4
	社会科教育法Ⅰ	2	選択		この講義では、社会科教育の意義と目標を最初に確認して、内容、方法、評価について学び、社会科教員として必要な基礎的な能力と資質を育成する。中学校社会科の意義・歴史的変遷と課題、目標、内容、方法、評価を取り上げる。また、社会科教育法Ⅰ（前期）においては、地理的分野を中心に取り上げ、優れた実践や教材なども適宜紹介して、授業の進め方、教材研究の方法について具体的に理解できるようにすることを目標としたい。	○							◎	4
	社会科教育法Ⅱ	2	選択		社会科教育の意義と目標を踏まえて、内容、方法、評価について学び、社会科教員として必要な基礎的な能力と資質を育成する。社会科教育法Ⅱ（後期）においては、中学校の教科書を参照しながら歴史的分野について具体的に取り上げる。教材研究も行って、社会科授業の実践的な能力を身に付けることを目標とする。 前期に引き続き、後期はグループごとに学習指導案を作成して、模擬授業を行う。なお、社会科教育法Ⅰでは社会科教育の原理と地理的分野、社会科教育法Ⅱでは歴史的分野、社会科教育法Ⅲでは公民的分野を中心に取り上げる。教科教育法であるので、アクティブラーニングが中心になる。	○							◎	4
	社会科教育法Ⅲ	2	選択		社会科教育の意義と目標を踏まえて、内容、方法、評価について学び、社会科教員として必要な基礎的な能力と資質を育成する。社会科教育法Ⅲ （後期）においては、中学校の教科書を参照しながら公民的分野について具体的に取り上げる。教材研究も行って、社会科授業の実践的な能力を身に付け、教育実習に耐えうるレベルまで引き上げることを目標とする。 社会科教育法１・２を踏まえてグループごとに学習指導案を作成したうえで、模擬授業を行う。社会科公民的分野を中心に扱う。特に模擬授業の時間を多くとる。同一のテーマの模擬授業を2回行う予定である。2回目は1回目の内容を改善してスムーズにできるようにする。教科教育法であるので、アクティブラーニングが中心になる。	○							◎	4
	社会科教育法Ⅳ	2	選択		社会科教育法Ⅲに引き続いて授業の練習（模擬授業）を行い実践力をより高めるとともに、社会科の意義について確認する。教育実習において、きちんと授業ができることを目標とする。社会科における課題を追究する学習についても、実際に行うことによって学ぶ。教育実習を終了した者は、その社会科授業の振り返りも行う。 授業の内容は次の通りである。 ・模擬授業を中心に実施して、授業の実践力を身に付ける。 ・教材研究を行って、授業に必要な社会科の知識を学ぶ。 ・優れた学習指導案から、学習指導案の作成方法や授業の方法を学ぶ。 ・学習指導案を作成して、授業の計画立案能力を高める。 ・教育実習終了者については、教育実習のまとめを行う。	○							◎	4
	地理歴史科教育法Ⅰ	2	選択		本科目では、地理歴史科教員に必要な「学習指導要領」の解説を中心とした授業を展開する。なるべく平板な授業とならないようにしたい。本科目の目標は、地理歴史科の担当教員の必要な学習指導案の作成方法をはじめとして、学習指導要領や教科構造の理解および実際の授業をすすめていくにあたって必要とされる教育技術の原理の習得をめざす。 本科目は、主として講義形式による授業形態をとるが、適宜、質疑応答を取り入れ、一方的な授業運営に陥らないように心掛ける。地理歴史科の担当教員に必要な学習指導案の作成方法や学習指導要領や教科構造の理解、実際の授業を進めるにあたって重要な教育技術など、地歴科の根幹を構成する内容全般にわたってテーマを取り上げる。	○							◎	4
	地理歴史科教育法Ⅱ	2	選択		地理歴史科教育について、その目標、内容とともに、地理学・歴史学との関係についても講義する。また、講義だけに終始せず、学習指導案の作成をはじめ、試験問題・配布資料の作成、実際の模擬授業も適宜おこなう。本科目では、地歴科の教材の取り扱い方から具体的な作成方法の習得までプロセスを重視した授業に重点目標をおく。 学習目標にそった授業を展開するに際して、教材を取り上げ組織化していく実践的な活動が、いわゆる「教材研究」である。授業の良し悪しは教材研究いかんによることはいうまでもない。ただし、地理歴史科が対象とする社会的事象は、作為の契機を含んだ複雑な性格をもっているため、そのとらえ方には多義的な視点が生じる。授業者には確固たる教材作成の理念が求められるゆえんである。本科目では、生徒の立場にたった教材化の視点から教材作りの実際にいたるまでのプロセスを具体的な事例に即して取り上げていく。	○							◎	4
	道徳教育の理論と方法	2	選択		この授業は、人間形成における「道徳教育」の重要な意義を歴史的な視点も含め総合的に理解するとともに、教職を志望する立場から現代社会における道徳と道徳教育の現状と課題について広く関心を持ちつつ、歴史的アプローチとして日本の近代教育と道徳教育の変遷をおさえつつ、21世紀に入って確立した「教科道徳」の意義と内容について取り上げていく。併せて、道徳教育のすぐれた教材や指導集を検討することを通して、道徳授業の実践的指導力の形成を図っていく。「新学習指導要領」の総則及び第3章への内容理解を踏まえつつ、新たな道徳教科書の教材研究と教材解釈に取り組んでみたい。そのうえで学級担任としての指導計画の立案と共に各回の指導案の検討と精錬そして指導案に基づく模擬授業の実践を体験していく。	○							◎	4

	総合的な学習の時間の指導法	2	選択		各教科等の学びを横断的・総合的に探究し、自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間の特質を踏まえ、往還的な探究学習を展開するために必要な知識・理論、具体的な指導計画・授業における指導方法などを理解する。 総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質能力の育成を目指すものである。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導方法並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けるよう具体的な事例を通し、考察していく。	○							◎	4
	特別活動論	2	選択		日本の学校教育において、特別活動はキャリア教育の要として教育課程に位置付けられている。生徒の全人的な成長を促すための教育活動の一つとして、特別活動は重要な役割を担っている。特別活動の教育的な理念を踏まえ、生徒を指導するために必要な知識・理論、具体的な指導方法などを理解する。 特別活動は学校における多様な集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体である。特別活動の教育的な意義を理解し、学習指導要領改訂の三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、各教科等との往還的な関連、家庭や地域と連携した組織的な対応等、特別活動の指導に必要な知識や素養を身に付けるよう具体的な事例を通して、考察していく。	○							◎	4
	生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)	2	選択		生徒指導は、生徒に対する総合的な指導であり、教育活動上、重要な位置をしめる。そのため、文部科学省は、教員への助言として生徒指導の基本原理や基本的事項・心得をまとめた「生徒指導提要」（平成22年3月。文部科学省）を発行するとともに、それをもとにした実践を期待した。そこで、本授業では「生徒指導提要」の概略の理解を第一義とし、さらに、生徒指導の実践に対する深い見識を持つことを目標とした。また、この中には進路指導・キャリア教育も含まれるため、それらについても理解を深める。	○							◎	4
	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む)	2	選択		現代の学校でおきている不登校、いじめ、非行などの問題を通して、思春期・青年期にある生徒に特有の心の特性を、教師として受容的・共感的に理解し、自ら乗り越えることを通して人格的成長を促す関り、態度を養う。また、教育相談の理論的・技術的な基本となるカウンセリングの理論と方法を学習し、生徒の相談に応じるための聴き方、傾聴的関わりを実践できることをめざす。さらにカウンセリングの基本となる考え方を自らの教育実践に生かすことのできる教師になることを期待している。	○							◎	4
	介護等体験	2	選択		この授業は、特別支援学校及び社会福祉施設での介護等体験とその事前・事後指導で構成される。 　この授業の目標は教員として必要な人間関係能力を養い、個人の尊厳及び共生社会の理念に関する認識を深めることである。そのため、特別支援学校の児童・生徒及び社会福祉施設の利用者などのさまざまな人々の生き方、相手の立場を尊重した接し方など、互いを尊重した人間同士のコミュニケーションを通して教師としての在り方を模索する。 　また、特別支援学校及び社会福祉施設での実習を通して、教員を目指す者として人間の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることを目指す。	○							◎	4
	教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）	2	選択		教育実習は３年次までのすべての学習経験をふまえ教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○		◎	4
	教育実習Ⅱ	2	選択		教育実習は３年次までのすべての学習経験をふまえ教職課程の集約点となる科目である。実習校で責任を果たしていくために、大学での事前指導において万全の準備を行い、教育実習に臨む教員としての態度と姿勢さらに学習指導や生徒指導の実践的指導力の確たる形成につとめていくことをねらいとする。そのために事前指導の一環として実習担当教員による面接を通じた指導や少人数クラスでの模擬授業の実践という課題に取り組む必要がある。また学外から、中学校もしくは高等学校の現職の先生より、実習の心構えとともに教師の仕事と責任について講演をいただく。	○					○		◎	4
	教職実践演習（中・高）	2	選択		この授業は教職課程の総まとめの科目であり、これまでに学んだ教職に関する知識、専門教科に関する知識、そして教育実習で得た経験、さらに教職インターンシップや学習チューター等で得た知識・技能を統合して、振り返りをおこなっていく。将来、教員としての責務を果たすために求められる教育実践において補わなければいけない点を認識し、それを補い、発展させるために模擬授業、フィールドワーク、グループ討論等を通して学び身に付けて、学校現場で活躍できる教員を目指す。	○					○		◎	4
特設科目群	日本語（言語知識）	2	選択		この授業は、上級レベルの力をつけるためのクラスである。試験のための言語知識・文法に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の方略を学ぶ。また、この授業では、単に言語知識を得るだけではなく、学んだ知識を活用して、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。			○		◎		○		
	日本語（読解・聴解）	2	選択		このクラスは、上級レベルの力をつけるための授業のクラスであり、N2以上のレベルの学生が対象である。日本語能力試験のための読解・聴解に関する問題の解き方など、どのようなストラテジーで問題を解いていくか、問題解答の戦略・方略を学ぶ。また、この授業では、単に読解力や聴解力を養うだけではなく、学んだ内容を活かして、学部の学びの中で使用できるようになることを目指す。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習が必要となる。			○		◎		○		
	日本語A	2	選択		日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいきます。話す・読む・書く・聞くの４技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識を使えるようになることを目的としています。そのため、学んだ内容を駆使し、発表したり、ディスカッションしたりします。特に口頭産出を学びます。授業外では、毎回、４時間程度の課題と復習が必要です。			○		◎		○		
	日本語B	2	選択		この授業は、内容面では「衣・食・住・廃棄物」といったテーマについて理解し、仲間との対話を通して自分なりの考えを形作り、表現できるようになることを目指します。技能面ではテーマに関する読み物を読み、音声を聞き、仲間と対話し、ふり返りを書くという一連の活動を通して、４技能をバランスよく使えるようになることを目指します。			○		◎		○		
	日本語C	2	選択		N2レベルの単語、漢字を習得し日本語能力試験N2に合格することを目標とする。 N2からN1へのステップアップも視野に入れる。 いまの自分の日本語能力でできること、できないことを明確にし、ステップアップを図る。 単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識が使えるようになることを目的としています。そのため、学んだ内容を使って、発表したり、ディスカッションしたりします。最後には自分の考えや意見をまとめ、発表およびレポートにまとめます。また、日本語能力試験のＮ２対策も授業で扱います。特に文字・語彙に力を入れます。授業外では、毎回、２時間以上の課題が出ます。			○		◎		○		

	日本語D	2	選択		JLPT N2合格を目指して、聞き取りのスキルを学ぶ。具体的には、日常的な場面に加えて幅広い場面で、自然に近いスピードの、まとまりのある会話やニュースを聞いて、話の流れや内容、登場人物の関係を理解したり、要旨を把握したりする力をつけることを目指す。			○		◎		○		
	日本語E	2	選択		日本語能力の包括的な底上げをするため、文法・読解・聴解・文字・語彙などを総合的に学んでいきます。話す・読む・書く・聞くの４技能をバランスよく学び、単に言語知識を学ぶだけではなく、学んだ知識が使えるようになることを目的としています。そのため、学んだ内容を使って、発表したり、ディスカッションしたりします。最後には自分の考えや意見をまとめ、発表およびレポートにまとめます。また、日本語能力試験のＮ２対策も授業で扱います。特に読解に力を入れます。			○		◎		○		

◎：DP達成のために、特に重要な事項
○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標
1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も… 「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさも守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナーシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」